「いい音」ビューティフル。

自由に気ままに楽しもう、おしゃれなミニカセットレコーダー。

新開発DNSSテープヒスノイズカット回路内蔵。
デジタル選曲機構装備。メタルテープ対応。

小さなボディながらもワイドなステレオサウンドが楽しめる《ステレオミニ6600》。2つの9.2cmスピーカーが叩き出す4.6W(2.3W＋2.3W、EIAJ/DC)のハイパワーは、豊かなステレオ臨場感を再現します。また曲の頭出しに便利なデジタル選曲機構や、テープ再生中に曲間および曲間に相当する低録音レベル時の耳ざわりなテープヒスノイズをカットする新開発DNSS(ダイナミック・ノイズ・サプレッション・システム)ノイズカット回路を採用。しかもメタルテープ対応ヘッドを搭載しています。

●AM放送の同調がしやすい周波数間隔を広げたロングスケール採用 ●テレビの1、2、3チャンネルが聴けるFMワイドバンド(76～108MHz)採用 ●FM局間ノイズをカットするFMミューティング機能つき ●フルオートストップ機構 ●ソフトイジェクト機構 ●ACアダプター付属

●9.2cmスピーカー×2 ●実用最大出力4.6W(2.3W＋2.3W)EIAJ/DC ●3電源/DC:9V(単2×6)、AC:100V50/60Hz(付属ACアダプター使用)、カーバッテリー:別売りカーアダプターD-72使用 ●大きさ幅41.0×高さ13.3×奥行7.3(cm) ●重さ2.5kg(乾電池含む) ★キャリングケース(別売りL-6600 ¥4,000)もございます。

ステレオ ミニ

TRK-6600 ¥44,800

品質を大切にする〈技術の日立〉

RADIO CASSETTE RECORDER

―生活と技術をむすぶ―

日立家電販売株式会社

〒105 東京都港区西新橋2 15 12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合日立のクレジットがご利用いただけます。

●商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求はお近くの日立の家電品取扱店へどうぞ。★日立カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。★日立カセットレコーダーには保証書がついています。ご購入の際には必ず記入事項をご確認のうえ、お受取りになり、大切に保存してください。

◎ 第8回世界女子選手権アジア予選 ◎

厚かった韓国の壁

日本女子三度び涙をのむ

═韓国は2年連続2度目の世界選手権出場═

日本女子は、三たび韓国の壁にはね返され、今冬の世界選手権への道を絶たれた――第8回世界女子選手権（12月1～13日・ブタペスト）のアジア大陸代表権をかけた予選会は、5月24日から29日まで東京体育館、日体大健志台体育館（24日のみ）で中国、韓国、日本3カ国の2回総当り戦によって行われた。

モスクワ・オリンピック予選（54年11月）に敗れて以来、〃この日〃に備えていた日本は、久々に、自信にあふれた攻守で女王の座奪還を目指したが、宿敵・韓国は、日本に優る充実で4戦全勝。日本は52年6月の前回予選から、ついに〃三連敗〃、涙をのんだ。

韓国は一次リーグを全勝で突破二次リーグ第2日（28日）、中国を破り、最終日（29日）の日本戦を待たず代表権獲得を決めた。世界選手権出場は2回連続2度目、韓国には〈ニッポン放送杯〉が贈られた。なお、参加を予定されていた台湾（中国タイペイ）は、5月上旬〃棄権〃を伝えてきた。

〔後記・杉山茂・NHK運動部〕

日本立ち上りのリード守れず

第1日・日本×中国の1回戦は5月24日午後7時2分から横浜市緑区の日体大健志台体育館で行われた。審判＝J・ロディル、K・オルセン（ともにデンマーク）。観衆＝約三百

中　国　21（14－9／7－9）18　日　本

得	【日本】		【中国】	得
0	井村	GK	王豊蘭	0
0	矢部	GK	劉玉梅	0
2	紀野	FP	甘春燕	3
1	西	FP	王明星	4
3	横山	FP	陳　珍	4
4	桑原	FP	李　蘭	4
4	薮田	FP	楊　萍	1
0	姫野	FP	楊淑江	1
1	羽立	FP	呉　萍	1
2	八木	FP	張佩君	0
0	増永	FP	周　玲	3
1	辻本	FP	謝長青	0
18	（1）	PT	（0）	21

○…緊張しきっているかにみえた日本は、実に素晴しい立ち上りを示した。

1分経つか経たぬうちに薮田が右サイドから決め、つづいて羽立（ポスト）、紀野と立石トリオであっという間に3－0としたのだ。

この立てつづけの攻撃に、中国は驚きの表情をのぞかせたが、王明星が左45度からミドルを決めてようやく落ちつき、反撃に転じた。

ロングシューターとみえた王明星が強引な突入から左腕でねじこみ、3点目は李蘭―周玲のコンビ

『ハンドボール』

57年6月号（第208号）目次

【表紙写真】世界女子選手権アジア予選日本×韓国第2戦。日本・羽立のシュート

スポーツイベント社提供

（ポスト）であげた。

このあとは一進一退、中国は15分李蘭で初めてリード(5—4)を奪ったが、日本も周玲の反則退場のスキをついて、西、桑原のゴールと薮田のジャンプシュートなどで8—6と逆転、さらに西が反則退場にあいながら、この間に、桑原の鮮やかな切りこみで9—6、上々のムードとなった。

中国は前半終了間ぎわ陳珍のゴールと、後半開始早々甘春燕のなだれこみで8—9とし、6分には11—11と追いついた。

しかし、日本は薮田がミドル、紀野が巧みなポストプレー、辻本が倒れこみと多彩な攻め口で、13分三度目の3点差（11—11）をつける。

結果論かもしれぬが、ここで、とどめを制すべきであった。もう一押しすべきであった。

しかも、日本は3回の絶好機をつかみながら2回を落とし、1回をラインクロスで失っていた。

このうち1点でも決めておけば15—11にでき、勝利へ突っ走れたのである。

約5分間拙攻をつづけていた中国を、みすみす立ち直らせてしまったのは、惜しんでもあまりある。中国は、左から陳珍、そして周玲がサイドとポストから連続ゴールして、わずか2分間で14—14だ。

同点にもかかわらず日本は完全に受け身。18分のマイボールをストーリングにとられリズムが狂う。

20分横山がようやくミドルを決め15—15としたが、実に、この間7分16秒もノーゴール。

中国は、日本の貧攻を〝疲れ〟と読んで、マイボールになるや王明星が打つとみせて広いステップで日本守備網の中へ割りこみ連続ゴール、17—15と優位に立った。

日本はPT(八木)で、反撃の気勢を示すが、主導権は誰の目にも中国へ渡っている。

王明星、甘春燕の若手コンビがスピード豊かなシュートを突き刺し19—16。

すでに、日本に反抗のエネルギーがない。八木で17—19としてもすぐに陳珍にとられ、西で18—20と粘っても、呉萍に突き放されてしまうもろさだ。

13分14—11から、なぜ、あと1点を加えられなかったのか。惜しいというより、歯がゆいような試合ぶり。そこを逃さず突いて来た中国の爆発力。

日本は、まだまだサキがあるとはいえ、第1戦を落したことは痛かった。

韓国、多彩な攻撃で圧勝

第2日・中国×韓国の1回戦は25日午後5時41分から東京体育館で行われた。審判＝J・ロディル、K・オルセン、観衆＝約一千。

韓国 30（16—8 14—9）17 中国

得	【韓国】		【中国】	得
0	全美玉	GK	王豊蘭	0
0	丁順福	GK	劉玉梅	0
1	金順淑	FP	甘春燕	1
6	金玉花	FP	楊　萍	5
0	金昌順	FP	呉　萍	1
10	尹秉順	FP	王明星	5
5	柳京美	FP	周　玲	0
4	張玉粉	FP	李　蘭	2
2	崔銀英	FP	張佩君	0
2	金先玉	FP	楊淑江	2
0	韓和洙	FP	陳　珍	1
0	尹英淑	FP	謝長青	0
30	（4）		（3）	17

○…テレビ中継（韓国向け衛星中継）の照明をめぐって試合開始が予定より10分も遅れるハプニング。

中国は王明星の先制点でスタートしたが、そのあとパスワークがととのわず、呉萍のフェイントで1点を加えただけ。その間に、韓国は速攻を容しゃなく決め、あっさり8—2と主導権を奪った。

その試合ぶりは、実に鮮やかだった。〝女王〟らしかった。ナンバーワンの座というのは、これほどまでに選手に自信を与えるものなのだろうか。

ディフェンスが、プレス気味に中国の大型攻撃陣をマーク、中国がポストと切りこみに活路を見出そうとするショートパス攻法を、カットしては、速攻に結びつけたのだ。

しかも、GK丁順福が、遠くから打ちこんでくるシュートを完ぺきに捌いたのだから、中国は打つ手がない。

それに、どうしたことか、中国ベンチは、この日、173cmの李蘭をあまり起用しなかったのである。

10—4、13—7と思わぬ点差の拡がりになり、後半10分には20—11と、大勢が決まった。

それにしても、中国に疲れが感じられたとはいえ、韓国の攻守の充実は、予想以上のものがある。

18才、178cmの巨砲・尹秉順（左腕）が、前評判どおりの強打をみせたほか、ポストの金玉花、サイドの柳京美らが、持ち味を存分に発揮、勝負のメドがついたあとも、攻撃の手をゆるめず、特に終盤にみせた丁順福—崔銀栄の二本のワンパス速攻は、スタンドの息をのませる快プレーであった。

残り7分間無得点が響く

第3日・韓国×日本の1回戦は26日午後6時56分から東京体育館で行われた。審判＝J・ロディル、K・オルセン、観衆＝一千六百。

韓国 25（12—10 13—13）23 日本

得	【韓国】		【日本】	得
0	丁順福	GK	井村	0
0	全美玉	GK	矢部	0
11	尹秉順	FP	紀野	2
7	金玉花	FP	西	6
0	金昌順	FP	横山	5
1	金先玉	FP	桑原	2
0	金順淑	FP	薮田	4
2	柳京美	FP	姫野	0
0	崔銀栄	FP	羽立	4
0	尹英淑	FP	辻本	0
2	張玉粉	FP	増永	0
2	韓和洙	FP	八木	0
25	（4）	PT	（3）	23

○…日本は、中国戦につづいて勝てた試合を引っくり返された。後半14分18—17の日本は、相手の強シュートを、当りに当るGK井村が鮮やかに阻止したあと、FPが巧くつないで横山がゴール、六度目の2点差。

韓国は金玉花のカットインで追うが、日本の攻撃にはテンポがある。17分紀野の速攻、18分横山の鋭い切りこみ、そして19分には羽立の絶妙のポストで22—19と、待望の3点差をつけた。

だが、不吉な予感が記者の胸中を走る。中国戦、同じようなケースであと1点を加えられないばかりに相手の反撃、逆転を許したもろさだ。

韓国の粘り、あくなき勝負への執着心を考えれば、ここで、あと1点、いや2点欲しい。

それにはディフェンス、と思った矢先、中央から金玉花が鋭い切りこみで、日本の守備陣を二人も抜いて20—22、さらに15分すぎからベンチへ退いていた尹秉順が再登場、彼女への関心を誘っておいて金玉花—張玉粉のコンビで21—22 1分後、姫野が金玉花にマン・

ツー・マンを掛けると、すかさず尹秉順が、右45度から豪快に打ちこんで23−23、日本は、またたく間に、貯金をはたかされてしまった。

日本ベンチのたてる作戦を、ほとんど見すかしているような韓国選手の働きは、印象的だ。

しかし、〃勝運〃は、まだ、日本に残っていた。

23分のPTを西が決め23−22としたあと、韓国は同点PTを尹秉順がはずすのである。

こうした明暗は、ビッグマッチの行方を、よく左右するものだ。

ところが、日本は、直後の絶好機をパスミスで逃し、〃勝運〃さえも手放してしまう。残り5分、金玉花に同点（23−23）とされたあと、ストーリングをとられ、スカイプレーにも失敗する。

27分のPT（尹）を、GK井村が、もののみごとに防いでいただけに、この二回の攻撃を落としたのは痛い。

日本×中国第2戦。日本のベテラン紀野のシュート

勝ちこし点を狙う両チームの動きは、韓国がはるかに滑らかだ。

はたして、日本の小さなミスから得たチャンスを28分金玉花、29分柳京美に得点へ結びつけられ、第1戦につづく悪夢のような逆転負けとなった。

スコアカードを眺めなおすと、日本は残り7分間無得点だ。敗因は、ここでの貧攻にあることは明らかだが、前、後半いく度となく訪れた絶好機を小さなミスで失っていたのが、やはり、最後へ来て、焦りになったのでは、なかろうか。

3−4を5−4に、10−11を12−11、15−15を17−15にした場面など、日本も全力を出し切っての試合ぶりだったが、そうした〃善戦〃のベースになっていたのは、GK井村の数々の超美技におうところが大きい。

【第1次リーグ順位】①韓国2戦2勝②中国1勝1敗③日本2敗。

日本、後半一気に逆転

第4日、中国×日本の2回戦は27日午後6時55分から東京体育館で行われた。審判＝J・ロディル、K・オルセン、観衆＝一千五百。

日本 29（17−12 / 12−14）26 中国

【中国】	得		得	【日本】
劉玉梅	0	GK	0	矢部
王豊蘭	0	GK	0	井村
楊萍	7	FP	1	紀野
楊淑江	1	FP	3	横山
甘春燕	4	FP	11	西
王明星	0	FP	5	桑原
周玲	1	FP	3	羽立
李蘭	7	FP	5	薮田
陳珍	5	FP	0	姫野
呉萍	0	FP	0	辻本
謝長青	1	FP	1	八木
張佩君	0	FP	0	岩村
26	（3）	PT	（6）	29

○…この一戦に敗れると、世界選手権行きどころか、韓、中両国に大きく水をあけられてしまうことになる。

2次リーグ初日とはいえ、日本は、瀬戸際に立たされての試合だった。

一方、中国も、試合前、王明亜コーチは「両国の手の内が分かったので、逆転優勝の自信は充分」と強気の弁だ。

両国の気迫は、立ちあがりから激しい点のとりあいとなり18分9−9。

中国は5分王明星がジャンプの落ちぎわ、足首を痛め退場というアクシデントに見舞われながらの進行で、前2戦より組織攻撃を多用、ベテランの楊萍（160㎝）が、鋭い動きで、日本のディフェンスをゆさぶった。

20分すぎ、中国は一転、ロング攻法に切りかえ、甘春燕、李蘭らが豪快なシュートを決めて、一気に3点のリードを奪った。

日本は前半終了前、桑原が左サイドからの攻撃を実らせ2点差に詰め、後半開始早々、西で13−14と迫ったが、どうしても五角に持ちこめず、かえって6分17−14と突き放され、スタンドを心配させた。

しかし、中国は、やはり、王明星の欠場が響き、この優位を絶対のものにするだけの迫力に欠け、むしろ、守りに廻ろうとする消極さをのぞかせた。

日本にとってはチャンスだった。15−17、16−18と点差をなかなか詰められぬいら立ちから9分薮田のミドルで17−18、9分40秒横山の左サイド攻撃で待望の同点、11分西が独走から逆転シュートを決める集中攻撃を成功させた。

この日の日本がよかったのは、このあと中国の粘りに会いながらつねに先手をとりつづけていたことである。

19−19から20−19、20−20から21−20と、同じ繰り返しを24−23までつづけ、残り7分、謝長青の反則退場に乗じて桑原、西が連打を浴びせ26−23、李蘭の強打に24−26とされ、不安な感じがかすめないでもなかったが、直後、薮田−桑原−羽立のスカイプレーを成功させ27−24、さらに、第2戦の終盤にいたって、初めて、とどめともいうべき1点を、巧者・八木がPTで奪い28−24、勝利を不動

のものとした。

単なる〈数字合わせ〉かもしれないが、国際的な実力伯仲のタイトルマッチでは、3点差は安全圏ではない。4点に開いて、どうにか優勢となるのである。

日本は、前2戦、3点リードの戦局で、いわばマッチポイントをあげられなかった。

この日は、それを取り待望の1勝をあげたが、勝因にGK井村の担変らずの健闘があった。

韓国、〃優勝〃決める猛攻

第5日、韓国×中国の2回戦は28日午後5時33分から東京体育館で行われた。審判＝斉藤稔、千野恒夫（ともに日本）、観衆＝約千。

韓国 33（15―13, 18―11）24 中国

得	【韓国】		【中国】	得
0	丁順福	GK	王豊蘭	0
0	全美玉	GK	汪玉琳	0
8	金玉花	FP	楊　萍	2
7	尹秉順	FP	甘春燕	5
0	崔銀栄	FP	呉　萍	0
4	柳京美	FP	楊莉琴	0
4	張玉粉	FP	陳　珍	1
1	金先玉	FP	李　蘭	8
3	金昌順	FP	周　玲	0
2	金順淑	FP	張佩君	2
1	金俊美	FP	謝長青	1
3	韓和洙	FP	楊淑江	5
33	（7）	PT	（1）	24

〇…ゴールうしろで見守る日本勢。韓国が敗れれば、あすに〃決勝〃を持ちこめる。

他の力（中国）に頼る弱さはあったが、祈らずにはいられなかったろう。

しかし、その日本の淡い希望を韓国は開始15分で打ち砕いた。

立ち上り1―1から、その猛攻は始った。

金玉花の中央突破を口火に3本のPTをはさんで尹秉順、張玉粉柳京美らがロング、ポスト、サイドと得意技を連発させ、守ってはGK丁順福が前二戦に優る好プレーで、中国の攻撃をおさえこんだ15分10―2、17分12―3のスコアとなっては、もう終りだ。

中国は18分すぎと23分すぎの二回、連続3ゴールを奪う攻撃をみせたが、韓国には、かすり傷ともならない。

後半、立ち上りこそ韓国は1点とられては返す、といった試合ぶりだったが、13分尹秉順が13メートル近いロングを決めたのを合図としたように、再び激しい動きを展開、高校生・金俊美（171cm）のミドルや、韓和洙の闘志にあふれた飛びこみシュートなどを織りこんで22分28―18、さらに地味ながらチームを引き立てていた金順淑が、しめくくりといわんばかりに3点連取をしてのけ、韓国人応援団の大歓声のなかで、二度目の世界選手権行きを、文句なしに決めた。

韓国は、戦前に予想したよりははるかにチーム力が高い。

韓国×中国。韓国張玉粉のシュート

なかでも、163cmながらセンターをつとめる金玉花の廻してよし、走ってよし、打ってよしの個人技と丁順福の自信にあふれたキーピングには、舌を巻かされる。

弱点もある、とみられていた巨砲・尹秉順は、一年前、ジュニア（予選）の時より、いっそう豪快味、確実味を増し、18才の若さを考えると、この先、どこまで伸びるか、恐しくさえなる。

日本も、中国も、尹をマークすべきか、金玉花をつぶすべきか迷ったようだが、それだけで、充分韓国にとって意味があった。

中国も、王明星の負傷という誤算はあったが、初めて〃世界〃を狙っただけの収獲は得たように思う。特に甘春燕、李蘭、陳珍らの新鋭の持つパワーは、これまでのアジア女子界になかったものだけに、次回以降は、いっそう無気味な存在となろう。

日本に〃悔しさ〃残し閉幕

最終日、日本×韓国の2回戦は29日午後4時26分から東京体育館で行われた。審判＝J・ロディル、K・オルセン、観衆＝約三千。

韓国 33（18―15, 15―8）23 日本

得	【韓国】		【日本】	得
0	丁順福	GK	井　村	0
0	全美玉	GK	矢　部	0
4	金順淑	FP	紀　野	2
1	金昌順	FP	横　山	0
9	金玉花	FP	西	7
0	金先玉	FP	羽　立	2
11	尹秉順	FP	桑　原	3
0	尹英淑	FP	藪　田	5
3	柳京美	FP	姫　野	0
0	崔銀栄	FP	岩　村	2
3	張玉粉	FP	八　木	1
2	韓和洙	FP	辻　本	1
33	（3）	PT	（3）	23

〇…「〃世界へ〃の道は閉ざされたとはいえ、ロサンゼルス・オリンピック予選を考えれば、ぜひ勝ちたい」というのが鈴木監督らコーチ陣の願いはもっともだったが、記者には、入り口で耳にした高校生らしいグループの言葉のほうが、胸にこびりついた。

「韓国のスピードはすごいらしいぜ。一人々々の技が段ちがいだってよ」――。

ファンたちは、僅かな情報をもとに、ヨーロッパのトップチームを迎えるような気持ちで、会場へ集ってきていたのだ。

えてしてこういうものだが、ファンは、関係者より一歩も二歩も早く〈強者〉を認めてしまうのである。

しかし、第1戦（26日）の試合ぶりからすれば、なんとかいけるのでは、というのが記者の期待であった。

勝負はあっ気なかった。記者の希望は、しごく簡単につぶされた。コーチ陣は、攻めて〃完敗〃を確認しなければならなかった。

望みをかなえた勢いと、坐折した沈みとの差も、もちろんのぞけた。実力以上のスコアになってしまったのも事実である。

だからといって、日本の〃負けかた〃を割り引けるものではない。

韓国は、楽々と日本ディフェンスを引きちぎり、ゴールを奪った。

自分たちの攻撃力は、いつでも得点できるのだぞ、そんな試合ぶりだった。

後半19分、日本は16―22から、にわかに活気づき岩村、八木、藪田らで4点連取、20―22に詰め寄った。

コーチの願いを、選手がよく理解しているな、そんな思いをおこさせるいい攻防だった。

ところが、このあと韓国のみせた攻撃は、凄じいの一語につきた。

例によって、口火は金玉花である。密集につぶされかけた味方をフォローしてパスを受けるや、巧みなステップで、日本のディフェンスを棒立ちにさせ23―20、さら

に尹秉順が、金玉花のお株を奪うような巧パスを張玉粉に送り24－20、つづいて尹白からが、高く高く跳びながら25－20、これで勝負とばかり金玉花－韓和洙の鮮やかなパスプレーで26－20だ。

日本はここでPTで1点を返したが、そのあと連続6点を奪われてしまう。

今回の日本は、モントリオール・オリンピック前のチームに近いまでに、力を盛り返していた。

選手の気構えにも感じられるものがあったし、難題をのりこえて予選の東京開催を実現させた日本協会の意気ごみも、なかなかであった。

それでいて、悲願は、またしても成らなかった。

主力選手たちは「悔しい」とだけいって、くちびるをかんだ。その気持ち、忘れないで欲しい。

だが、球界全体は「悔しい」だけではすまされない。

徹底的に〝なにか〟を考えなければなるまい。

その〝なにか〟をめぐって、三百六十度から意見をぶつけあうことだ。

七十年代のハンドボール感覚をいっさい捨て、遅まきながら八十年代の女子ハンドボールを見つけ出す〝作業〟を、あすからでも始める必要があるだろう。

日本のファンが、日本のプレーを楽しみに来てこそ、日本の勝利が期待できる。

ウイニング・ランする韓国セブンに浴びせられる歓声、－東京体育館に居ることを忘れさせるような、雰囲気のなかで、日本ハンドボール界の総力を結集したアジア予選は幕をおろした。

【最終順位】①韓国4戦全勝②日本1勝3敗（得93、失105、差マイナス12）③中国1勝3敗（得88、失110、マイナス22）。

日本×韓国第2戦。日本横山のシュート

合宿のたびに〝優勝〟の自信

韓国・金永年コーチの話　チームを預るようになってから五カ月だが、合宿のたびに手応えを得て〝優勝〟の自信はあった。本大会のことは、これから考える。

日本・鈴木義男監督の話　韓国との差は、個人技にあった。それに、課題のロングヒッターが、どうしてもあと一、二枚足らず、攻撃の幅(はば)で韓国より劣った。

中国・王明亜コーチの話　1次リーグで日、韓の実力が分かり、〝逆転〟の目算をたてていたのだが…。やはり、我々のチームはキャリアが不足している。

韓国は、ソ連などと同組

IHF(国際ハンドボール連盟)は、本大会の予選リーグ組み分けを、次のように決め発表した。

アメリカ大陸代表は、近くアメリカ×カナダ戦を行って決定。

▽A組　東ドイツ、ハンガリー、ノルウェー、アメリカ大陸代表

▽B組　ソ連、ルーマニア、ブルガリア、韓国。

▽C組　ユーゴ、チェコ、西ドイツ、コンゴ。

ブラザー工業と親善試合

世界女子選手権アジア代表となった韓国は、帰国を前に名古屋へ立ち寄り、ブラザー工業(愛知)と同社体育館で2試合の親善試合を行った。

▽第1戦
ブラザー工業（愛知）38（18－19、20－13）32 韓国

▽第2戦
韓国 40（21－15、19－17）32 ブラザー工業

世界女子選手権アジア予選3カ国出場選手名簿

【日　本】

	氏名	才	cm
監督	鈴木　義男		
コーチ	緒方　嗣雄		
コーチ	井　　燕		
GK	井村文光子	22	170
	矢部登茂子	22	170
	梅野　康子	22	162
FP	紀野奈々美	26	165
	横山　澄江	25	159
	西　　典子	24	167
	羽立　節子	24	159
	桑原　広子	23	163
	姫野五十鈴	23	154
	石井美沙子	23	167
	辻本　典子	23	166
	薮田　典子	22	165
	八木千津子	22	155
	増永真奈美	21	158
	岩村　英子	20	173
	寺沢　路子	19	167

【韓　国】

	氏名	才	cm
監督	李　峰　一		
コーチ	金　永　年		
GK	丁　順　福	21	168
	全　美　玉	20	165
FP	金　順　淑	24	167
	張　泉　姚	23	168
	金　玉　花	23	163
	金　昌　順	22	169
	柳　京　美	21	167
	金　先　玉	20	167
	張　玉　粉	20	163
	尹　英　淑	20	163
	崔　銀　栄	20	170
	韓　福　男	19	166
	韓　和　洙	19	160
	尹　秉　順	18	178
	金　俊　美	16	171
	成　京　花	16	172

【中　国】

	氏名	才	cm
監督	張　玉　林		
コーチ	王　明　亜		
GK	王　豊　蘭	26	170
	汪　玉　琳	24	176
	劉　玉　梅	20	175
FP	楊　　　萍	26	160
	周　　　玲	26	169
	楊　淑　江	25	168
	張　佩　君	24	174
	楊　莉　琴	24	174
	呉　　　萍	24	174
	謝　長　青	22	164
	孫　秀　蘭	21	169
	李　　　蘭	20	173
	王　明　星	20	173
	甘　春　燕	20	177
	陳　　　珍	18	171

個人の逞しさ不足を反省

＜世界女子選手権アジア予選後評＞ 日本協会強化部長 竹野奉昭

波に乗れなかった

一度失った王座を奪いかえすのが、如何に難しく、苦しいかを改めて思い知らされた大会だった。

ご声援いただいた全国の関係者には、誠に申しわけない結果になったが、日本選手はホームコートに、このビッグマッチを迎え、精いっぱいの力をふりしぼりながら、韓国のパワーを上廻ることが出来ず、敗れ去った。残念なことだし、重ねて、皆さまの声援に対し報いられなかったことをお詫びしたい。

日本は、昨秋のヨーロッパ転戦以来、チーム力を目ざましいまでに復興させ、コーチングスタッフも、充分手応えを得ての開幕であった。

選手たちも、世界選手権のアジア代表になる、ということよりも韓国を倒したい、中国と結着をつけたい（注・過去1勝1敗）という思いがみなぎり、私も、秘かにアジアのクイーンの座を奪還することに、確信を得たほどであった。

敗因は、やはり、最後まで波に乗れないことにあった、と思う。

選手たちの気合いは、たしかに中国を圧倒し、韓国をたじろがせるものもあったが、勝負を決めるまでの勢いにはつながらなかったのである。

第1戦の中国戦で、日本は再三再四にわたって、いい形になった。それは＜勝利＞を招くだけの絶好の形でさえあったのだが、一気に突進し、相手をナックアウトするだけのパワーが、発揮できなかった。そのうちに、相手に反撃の糸口をつかまれ、逆転された。

第2戦の韓国戦も、ほぼ同じパターン。いく度となく先行しながら、試合そのものの主導権を握れないままに時を過し、最後のところで、相手の寄りに屈した。

惜しい、というより、あまりにも「もったいない負けかた」だ。そして、この1点の不足こそ、王座を奪いかえす難しさでもあるのだ。

技術的には、日本選手一人々々の〝個人技〟に、たくましさが欠けていたことが、反省させられる。

この欠陥が、チーム全体のウィークポイントにもなって、勝機に立ちながら、その目を、さらに強く太くするだけの力を生めなかったのである。

日本のプレーは、攻防両面で、一つきまる時は実にキレイだが、一リズムを崩されると、建てなおしに手間どる。その点、韓国や中国は、流れるようなパスワークとランニングからプレーを生むのではなく、個人々々の突進力を、巧みに連結させて、プレーが組み立てられている。

そのために、相手（日本）のマークにあって、リズムを狂わされても、個人のテクニックで、その場面に対応できるのである。

日本が、苦労してフォーメーションからポイントしても、すぐに相手の、それも特定の一人か二人の選手の強打によって、すぐ取り返されてしまうシーンが、何度も見られた。

このあたりは、国内の女子の試合でも、しばしば見うけられ、それが、全日本にも、そのまま、欠点として持ちこまれてはいまいか。

2回の韓国×中国戦を、いわゆる＜第三者の目＞で見ていたが、両国の選手は、ボールを持つと、なんとか、自分でポイントをあげられないものか、という姿勢を、まず、のぞかせる。

極端にいえば、その狙いがムリと判断された時、初めて、自分はパッサーにまわるのである。

日本との試合では、こうしたプレーが〝一人時間差攻撃〟的な効果さえ生んでいたものだ。

対照的に日本の試合のある場面で、絶好のシュートチャンスをつかんだ選手がパスを送って、スタンドの嘆声を呼んだ。

この選手は、決められたパターンを守るがあまり、自からのチャンスをも捨てて、しまったのである。

ロスを目ざして努力

日本選手は、野性味という点で韓、中両国に、遅れをとっていたという反省も残るのである。

私は、前にも書いたように、選手たちが、本大会へ参加することよりも、アジアのライバルに勝とうとして、この予選に臨んでいることを知り、期待をかけていたのだ。

ところが、試合が始ってしまうと、このたくましさは、どこかえ置き忘れられ、しかも、大事な、ここぞという局面で、一層、その色がうすめられたのは、かえすがえすも残念である。時が経ってみれば、選手たちも無念であろう。

この悔しさを晴らす機会は、来年のロサンゼルス・オリンピック予選だ。6年後、自国の首都にオリンピックを迎える韓国と、ヨーロッパのトップクラスに劣らぬ若く大型な選手を揃えている中国の〝実力〟を考えると、日本も、今回の善戦で、希望を抱くのは、正直のとこ早い。

残る1年余の間に、いかに、主力選手の心と技にたくましさを加えるかが、最大の課題であろう。

4年前、アジア・ナンバーワンの座を滑り落ち、チームとしての固まりさえ失いかけた低迷は、昨秋以来コーチと選手の努力で、どうにか、復旧できた。

あとは、個人技のアップである。コーチングスタッフも、今回の敗戦を徹底的に分析し、次回を期している。

全日本女子への変わらぬご支援を、切望するものである。

●日中交流

選手層に厚味を増した中国

日本男子は接戦の連続、女子は6連敗

日本・中国の第5回（女子第3回）交流は、4月10日から19日まで、全日本男女が同時遠征して、北京、上海などで各6試合が行われた。

国際ハンドボール界に本格的登場を遂げてから2年余の経った中国球界は、いちだんと選手層に厚味を増し、男子は接戦の連続の末、日本が辛くも4勝1分1敗と勝ちこしたが、女子は、各地選抜チームに6連敗、5月末の世界女子選手権アジア予選（東京）の予断を、にわかに許さないものとした。

男子

終盤の崩れで緒戦失なう

第1戦、中国軍隊「八月一日」クラブとの試合は4月10日午後8時20分から北京工人体育館で行われた。

審判＝俞志恩、李住久。

「八月一日」ク 25（14—11、11—11）22 日本

【日本】		得
GK	大畑	0
	井藤	0
FP	西山	5
	山本	2
	池ノ上	5
	猪野	2
	生駒	6
	佐々木	0
	志賀	0
	三本松	0
	田口	0
	山口	2

【八一】		得
GK	邵志雄	0
	閔鉄	0
FP	李国才	2
	劉峰	0
	金百煉	5
	孟優勝	0
	徐旭波	0
	李英才	2
	張生	7
	張保平	1
	白義順	5
	張新安	2

25（2） PT （3）22

◇このほかの出場者【八】FP劉豊（得1）張明（得0）【日】FP中

○…中国ナンバー・ワンといわれる「八月一日」クは、人民解放軍のチーム。

一昨年の訪中でも、第1戦で顔を合せたが、この時は、全日本が20—17。

雪じょくの機会を待っていたかのように「八月一日」クは、いきなり金百煉、白義順、張生らの強シュートを軸にスパート、日本は20分8—12とリードされた。

後半、ようやく雰囲気になれた日本は山本の好リードから生駒池ノ上のロングで反撃、16分19—19と追いついた。

ここでディフェンスが締まれば一気に主導権を握れたのだが、僅かな出足の鈍りをつかれ、張新安らの連続3ゴールをうけ、相手の逃げ切りを許した。

超満員の観衆を集めての日中交流戦

前半のリード活かす

第2戦、北京選抜との試合は11日午後8時30分から北京工人体育館で行われた。審判＝俞志恩、王健云。

日本 29（17—13、12—14）27 北京選抜

【北京】		得
GK	張悦	0
	孫鉄	0
FP	李太平	1
	郎正平	0
	胡五山	1
	夏抑	0
	高忠信	5
	王雄	8
	王映庭	3
	趙志	5
	蔡建国	4
	宋	0

【日本】		得
GK	大畑	0
	井藤	0
FP	山本	5
	西山	8
	猪野	4
	池ノ上	6
	生駒	4
	志賀	0
	田口	0
	三本松	0
	山口	1
	佐々木	1

29（2） PT （7）27

◇このほかの出場者【日】FP中井（得0）、【北】FP徐鵬（得0）

○…昨秋の世界選手権予選代表（東京）を主力とする北京は、第1戦の相手に次ぐ強敵だったが、日本は池ノ上、西山らの活躍で前半にあげたリードを後半よくキープ後半15分22—21から山本の連続得点などで20分26—21、勝利を決定づけた。北京は後半20分以降、6本のPTを王雄が決め、粘りついてきたが、日本は余裕をのぞかせて勝った。

後半、一気のたたみこみ

第3戦、天津選抜との試合は13日午後8時30分から天津市人民体育館で行われた。日本は後半の猛攻で2勝1敗とした。

日本 29（12—12、17—11）23 天津選抜

得	【日本】		【天津】	得
0	大畑	GK	胡金豹	0
1	井藤	GK	孫建忠	0
7	山本	FP	雷　鳴	1
2	猪野	FP	潘玉強	1
1	志賀	FP	尹宝城	2
3	池ノ上	FP	穆瑞正	5
6	生駒	FP	翟文明	1
6	西山	FP	孫建忠	0
1	三本松	FP	曹久利	4
0	佐々木	FP	汪肩来	5
0	田口	FP	順	0
1	山口	FP	趙邦文	4
29	(4)	PT	(4)	23

◇このほかの出場者【日】FP中井(得1)【天】FP宝渝(得0)

○…10分2－5と先行された日本は、猪野、生駒らで追いあげ、27分10－12としたあと28分西山、29分50秒PT(山本)でタイとした。

勝負をかけた後半、日本は2分GK井藤のダイレクトスローによる得点で活気づき、志賀、池ノ上らがたたみこみ15分21－17、そのまま一気に押し切った。

海軍の粘りを許す

第4戦、中国海軍選抜との試合は14日午後3時30分から天津市人民体育館で行われた。

日本 22(11－9 / 11－13)22 中国海軍選抜

得	【日本】		【海軍】	得
0	大畑	GK	黄長城	0
0	井藤	GK	黄銀翼	0
6	山本	FP	李　翔	0
1	志賀	FP	呉明群	4
2	池ノ上	FP	刘　濤	1
2	生駒	FP	娄新華	0
5	西山	FP	劉国権	0
0	猪野	FP	劉建昌	5
0	山口	FP	施　維	0
3	田口	FP	安福田	3
1	三本松	FP	孫平生	5
2	佐々木	FP	娄鵬良	4
22	(2)	PT	(5)	22

◇このほかの出場者【日】FP中井(得0)【海】FP張健華(得0)

○…中国海軍は、立ち上り、日本のスピードプレーに先行されたが、10分すぎから劉建昌の強打などで主導権を奪い返し、優位に立った。

後半も海軍が着実な攻撃で押し気味、日本は15分17－19から生駒西山でいちどはタイとしながら、突き放され、28分20－21と危かった。

しかし、ここで、満を持していた佐々木が28分同点、29分逆転のシュートを決め、勝利をもぎとったかに思えた。

粘る海軍は、29分すぎからのマイボールを巧くつないだあと、タイムアップ寸前、劉建昌に射たせこれがみごとに成功、日本は、惜しいところで引き分けにされた。

中国の女子チームは，層も厚くなって日本チームは6連敗を喫する

中井、健在の逆転シュート

第5戦、安徽選抜との試合は16日午後9時から合肥市の安徽省営アウトドアコートで行われた。

日本 21(11－10 / 10－10)20 安徽選抜

得	【日本】		【安徽】	得
0	大畑	GK	謝継勇	0
0	井藤	GK	李貫宝	0
2	山本	FP	李　剛	0
5	西山	FP	李和平	5
0	三本松	FP	査全国	1
4	池ノ上	FP	宋安文	8
3	猪野	FP	呉　鋭	1
0	志賀	FP	朱昭符	1
6	生駒	FP	張　林	2
0	田口	FP	在　波	0
0	山口	FP	桂桶軍	0
0	佐々木	FP	付曜双	2
21	(2)	PT	(5)	20

◇このほかの出場者【日】FP中井(得1)【安】FP娄效順(得0)

○…訪中の際、必ず行われるアウトドアコートのナイトゲーム。

激しい射ち合いから安徽が残り6分20－18とリードしていたが、日本は西山、池ノ上でタイとしたあと、残り1分30秒、中井が鮮やかな逆転の決勝点を奪った。

中井はコーチとしての参加だったが、遠征メンバーが最少人員となったため、出発直前、選手兼任となったもので、第1戦から守りの要で健闘していたが、この日は攻めでもヒーローとなり、劣えぬ力と巧さを示した。

ディフェンスが勝利呼ぶ

第6戦(最終戦)、中国軍隊「八月一日クラブ第二チームとの試合は19日午後8時30分から上海市体育館で行われた。

日本 17(12－10 / 5－6)16 「八月一日」クB

得	【八一】		【日本】	得
0	趙　巍	GK	大畑	0
0	王農濤	GK	井藤	0
0	孟優勝	FP	山本	4
2	尚天健	FP	西山	0
3	張　明峰	FP	池ノ上	7
0	王董超	FP	志賀	1
0	天常樹	FP	猪野	3
0	白　帆	FP	生駒	1
3	朱　明	FP	三本松	0
0	隋　晶	FP	佐々木	0
4	劉　豊	FP	田口	0
		FP	山口	0
16	(2)	PT	(2)	17

◇このほかの出場者【日】FP中井(得1)【八】FP千(得1)徐旭波(得1)冠娌(得2)。

○…前半はたがいに凡失が重っ

て6－5という少得点。日本は池ノ上、「八月一日」クBは、劉豊、朱明を押し立てて射ちあった。

日本は残り4分15－16と苦しかったが、残り2分間にセンターの山本が鋭い切りこみから連続ポイント、前試合につづく会心の逆転勝ちをおさめた。

山本の巧技とともに、終盤のディフェンスの固さが勝因。

全日本男子・竹野奉昭監督の話 世界選手権から帰って一カ月足らずでの遠征、ほとんど合同練習ができず不安があったが、中井と山本が、よくチームをまとめてくれた。

中国各チームは、新人を温存しているのか、これまで何回か戦ったことのある選手が多く、比較的やり易かった。

これで昨冬のフランス国際以来の全日本の遠征を終え、秋口まで伏み、今秋のアジア大会制覇に備えたい。

女子

第1戦、広西選抜との試合は4月10日午後6時55分から北京工人体育館で行われた。

広西選抜 33（17－12／16－11）23 日本

得	【広西】		【日本】	得
0	王小華	GK	村井	0
0	安欧華	GK	部矢	0
2	張　勝	FP	野紀	4
7	楊　萍	FP	山横	3
1	李　然	FP	原桑	1
2	黄美蘭	FP	野姫	0
5	曽　錦	FP	村岩	6
0	左　麗	FP	井石	0
9	朱運珍	FP	立羽	1
5	翟容梅	FP	田薮	5
1	謝常青	FP	永増	0
1	張小玲	FP	沢寺	1
33	（4）	PT	（6）	23

◇このほかの出場者【日】FP前田村上（ともに得1）

○…日本の立ちあがりは固く、そのスキをつかれて5分0－4とされた。このうち、2点はPT。

日本はようやく6分横山、7分紀野でポイントしたが、広西は攻撃の手をゆるめず22分11－6と差を拡げた。

後半も同じような展開で、日本は1点あげても、2点失うという拙い試合運び、相手の強引な切りこみに対するマークが甘く、攻めてディフェンスのもろさを痛感させられた。

広西は、昨年来日して活躍した楊萍、朱運珍のコンビが中心で、この二人のもつ技(楊)と力(朱)が中国女子の代表的なカラーといえる。

守りの鈍さが勝ち逃す

第2戦、北京選抜との試合は11日午後7時10分から北京工人体育館で行われた。

北京選抜 23（8－12／15－9）21 日本

得	【日本】		【北京】	得
0	村井	GK	汪玉玲	0
0	部矢	GK	薛桂栄	0
1	野紀	FP	王　霞	5
0	野姫	FP	李　文	0
1	原桑	FP	王琳烽	4
5	田薮	FP	王玉霞	0
4	立羽	FP	蘇　澱	0
1	山横	FP	高暁燕	0
2	村岩	FP	甄愛臣	5
7	沢寺	FP	李麗栄	5
0	井石	FP	郭英淑	4
0	岡松	FP	鄧淑英	0
21	（9）	PT	（8）	23

◇このほかの出場者【北】FP陶京萍（得0）【日】FP増永、村上（ともに得0）

○…薮田のゴールで元気よく飛び出した日本だが、すぐに北京の連続攻撃を浴び10分6－3とリードされた。

北京は要所で得たPTを確実に活かすなどして楽なペースとなったが、日本も、後半10分すぎから羽立の連続3ゴールを中心に追いこみ20分17－19と期待をもたせた。

しかし、北京は21分、この日11本目のPTを決めて20－17、さらに甄愛臣のポストで21－17とし、勝利をほぼ手中にした。

日本は、この日も相手のスピードを防ぎ止める一歩の出足を欠いた。

天津、二回の集中攻撃

第3戦、天津選抜との試合は13日午後7時15分から天津市人民体育館で行われた。

天津選抜 25（11－9／14－10）19 日本

得	【日本】		【天津】	得
0	村井	GK	王豊蘭	0
0	部矢	GK	鄭　玲	0
1	野紀	FP	高秀敏	0
1	西	FP	楊淑江	3
1	山横	FP	呉　萍	7
1	原桑	FP	周　玲	3
1	永増	FP	朱李栄	1
3	沢寺	FP	張　強	3
7	田薮	FP	範蓮雲	2
1	井石	FP	王凱萍	0
1	野姫	FP	劉春玲	0
2	村岩	FP	鄧芝紅	6
19	（7）	PT	（7）	25

◇このほかの出場者【日】FP松岡村上、前田、羽立（いずれも得0）

○…この日も薮田の先取点で始まったが、相変らずPTでポイントを奪われ10分3－5と先行された。

日本も、二本のPTを活かし25分9－10と迫り粘ったが、天津はこのあと範蓮雲と張強で連続4ゴールしたのが大きく、後半15分すぎにも連続6点の集中攻撃をみせ初めてPT場面で西を繰り出すなど、一勝を狙った日本を突き放した。

日本、攻守に疲れのぞく

第4戦、山西選抜との試合は、14日午後2時5分から天津市人民体育館で行われた。

山西選抜 28（15－12／13－10）22 日本

得	【日本】		【山西】	得
0	矢部	GK	趙恩聡	0
0	井村	GK	簡鞠香	0
0	紀野	FP	張青	2
2	横山	FP	何智敏	2
4	桑原	FP	張衛紅	7
1	村上	FP	孫秀蘭	8
2	石井	FP	劉麗栄	5
2	羽立	FP	馮品	0
0	増永	FP	曹原玲	0
1	寺沢	FP	張愛萍	0
7	岩村	FP	趙瑞琴	0
3	藪田	FP	李玉梅	4

28（5）PT（3）22

◇このほかの出場者【日】FP姫野、松岡、村上（いずれも得0）

○…日本は15分5―7から初先発の西が連続ゴール、7―7としたが、20分すぎ山西の多彩な攻撃に5点（内PT2）を奪われる拙い試合運びで善戦を空しくした。

余裕の出た山西は、後半もポスト攻撃から5分までに4点、15分19―14として早々と勝負を決めた。

日本は疲れがのぞき攻守に鋭さを感じられなかった。

日・中両国の女子チーム記念撮影

個人の総合力に差

第5戦、安徽選抜との試合は16日午後7時30分から合肥市の安徽省営アウトドアコートで行われた。

安徽選抜 28（18 10 ― 10 9）19 日本

得	【日本】		【安徽】	得
0	矢部	GK	袁慕瑛	0
0	井村	GK	劉玉梅	0
1	紀野	FP	王明星	9
7	西	FP	陳応芳	5
1	横山	FP	甘春燕	2
4	桑原	FP	陳歴蘭	2
1	羽立	FP	陳珍	5
2	石井	FP	徐桂芳	0
2	岩村	FP	張清	0
0	増永	FP	才仁霞	0
0	藪田	FP	李蘭	5
1	前田	FP	祝国林	0

28（9）PT（5）19

◇このほかの出場者【安】GK周春鳳（得0）、FP張建華、陳静、崔俊霞、朱乃霞（いずれも得0）【日】FP村上、寺沢、松岡、姫野（いずれも得0）

○…安徽省は新鋭の宝庫といわれる。

はたして王明星、甘春燕、李蘭らが、昨秋の、世界ジュニア出場（カナダ）で、一まわり大きくなったプレーを見せた。

特に後半のパワーにあふれたプレーとテクニカルなプレーの使い分けは鮮やかで、日本は1分10―10と互角に戻したのも束の間、あっという間に14―10、20分には21―16、さらにこのあと4点を奪われるなど押しまくられた。

日本と中国の大きな差は個人の総合力というのが、男子選手の感想だった。

粘り通せず6連敗

第6戦（最終戦）、上海選抜との試合は、19日午後7時から上海市体育館で行われた。

上海選抜 22（10 12 ― 10 10）20 日本

得	【上海】		【日本】	得
0	武邢江	GK	井村	0
0	王麗雅	GK	矢部	0
1	呉慧敏	FP	紀野	0
9	呉銀蘭	FP	桑原	2
3	翼静芳	FP	羽立	2
5	張倘君	FP	岩村	2
3	劉莉萍	FP	増永	0
0	黄翠娟	FP	藪田	8
0	周静	FP	西	3
0	李源	FP	石井	0
1	楊莉萍	FP	横山	2
0	成濤	FP	寺沢	1

20（6）PT（1）22

○…昨年の中国選手権（女子）の順位は上海、広西、合肥（安徽）天津…というのだが、その上海に日本はいちばんよく食い下った。

互角のスタートから、わずかに上海がリードしたが、日本は前半20分すぎ3本のPTを活かし、さらに藪田のサイド攻撃で26分10―9と逆転した。

ところが、このあとの4分間に3点を奪われたうえ、味方は1ゴールも加えられなかったため、後半にハンデを背負った。

日本は15分すぎ14―18とされながら藪田、羽立で16―18と粘り、あるいはと思わせたが、上海は劉莉萍の巧技で一気に3ゴール、5点差をつけて主導権を離さなかった。

日本は残り7分からの寺沢らの3ゴールで再び19―21まで詰め寄ったが及ばず、思いもかけぬ6連敗を喫した。

昨年5月は1分3敗、一昨年4月は1勝1分4敗と通算成績は、ますます差が開いた。

全日本女子・鈴木義男監督の話　中国はこの交流で世界選手権予選の代表を選ぶとかで選手の意気ごみがちがった。

日本は、予選を考え手の内を控えての各試合で、それを考えればまずまずのデキ、6連敗といっても、あまり気にはならない。

昨秋、今秋のヨーロッパ遠征でチームとしてのまとまりに不安はなくなっており、課題はスタミナとディフェンス。西や辻本の復調を考えれば見通しは悪くない。

中国遠征日本代表選手団

- 団　長　永井常三竜（日本協会評議員）
- 男子監督　竹野　奉昭（日本協会強化部長）
- 男子コーチ中井　武三（日本協会強化コーチ）（兼選手）
- G　K　大畑　孝広（本田技研鈴鹿）
  - 井藤　英忠（湧永薬品）
- F　P　山本　伸二（湧永薬品）
  - 池ノ上孝司（湧永薬品）
  - 志賀　良弘（湧永薬品）
  - 生駒　靖夫（湧永薬品）
  - 佐々木信男（本田技研鈴鹿）
  - 三木松俊雄（本田技研鈴鹿）
  - 猪野　栄一（本田技研鈴鹿）
  - 西山　清（日新製鋼）
  - 山口　哲史（三陽商会）
  - 田口　勝利（大同特殊鋼）
- 女子監督　鈴木　義男（日本協会強化委員）
- 女子コーチ井　薫（日体協会強化委員）
- 女子コーチ紀野奈々美（日本協会強化コーチ）
- G　K　井村文光子（立石電機）
  - 矢部登茂子（ジャスコ）
- F　P　羽立　節子（立石電機）
  - 桑原　広子（立石電機）
  - 藪田　典子（立石電機）
  - 姫野五十鈴（立石電機）
  - 岩村　英子（立石電機）
  - 横山　澄江（ジャスコ）
  - 松岡　千恵（ジャスコ）
  - 寺沢　路子（ジャスコ）
  - 西　典子（大崎電気）
  - 石井美沙子（大崎電気）
  - 増永真奈美（ブラザー工業）
  - 前田　重子（日立栃木）
  - 村上　敦子（日本ビクター）

BROTHER
ブラザー
ブラザー工業株式会社
ブラザーミシン販売株式会社

関東、関西学生選抜が西ドイツ遠征

関東学連恒例の第5回ヨーロッパ（西ドイツ）遠征と、初の関西学連西ドイツ遠征がそれぞれの男女選抜チームによって2月末から3月上旬にかけ、相次いで行われた。

また、高校チームとして、初のヨーロッパ遠征を試みた大阪高校選抜（男子）も3月末から4月上旬まで、実りの多い旅をつづけてきた。

関東学生

2月26日から3月14日まで、西ドイツのヘッセン地域を中心に、男女各6試合を行った。

▽男子

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
関東学生	25	16－10	9－10	20	TV・アッシュバッハ
関東学生	22	9－8	13－7	15	TSV・アイボルスハウゼン
TV・グラットバッハ	25	9－12	16－9	21	関東学生
ヘッセン・ジュニア選抜	29	14－10	15－12	22	関東学生
関東学生	25	9－10	16－8	18	TSV・フンゲン
ゾイルベルグ	26	11－12	15－13	25	関東学生

▽女子

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
関東学生	39	20－5	19－1	6	TV・アッシュバッハ
関東学生	25	17－5	8－10	15	ドイテンホーヘン
関東学生	33	21－6	12－6	12	アッシュヘンブルグ
関東学生	19	10－7	9－10	17	ヘッセン地域選抜
関東学生	28	14－4	14－3	7	TV・ニダ
GW・フランクフルト	20	11－9	9－9	18	関東学生

【遠征メンバー】▽団長　福地賢介▽総務　鈴木孝八郎▽総監督　藤原侑▽男子監督　綿貫敏雄▽同主務　松田弘（中大）、宮沢良光（日大）▽女子監督　高野亮▽同コーチ兼選手　石井幸（日体・⑤）▽同主務　山下伴子（日体大）、島田純子（明星大）、田中久美子（明星大）。

▽選手（男子）・GK木村晃（中大）、西畑賢治（早大）、石井達郎（日体大）

・FP高村誠一（日体・⑮）、田中宏明（日体・⑨）、宮崎伸一（中央・⑧）、太田善隆（中央・④）、伊藤治也（日大・⑨）、菅沼保幸（日大・⑤）、田畑和典（早稲田・㉘）、加藤元規（早稲田・㉑）、竹野誠司（筑波・⑥）、岡辺徹（筑波・⑦）、高良茂（法政・③）、高良昇（法政・⑨）、遠藤克彦（国士舘・⑤）、石塚毅夫（慶応・①）、福士唯男（東海・⑧）、大竹貴（明治・②）、館野裕之（立教・0）。

（女子）・GK高倉史子（日体）大坪みゆき（東女体大）。

・FP天野優子（日体・㉔）、国府小百合（日体・⑬）、伊藤峯（日体・②）、宮田由起子（日体・⑫）、石原房枝（日体・⑪）、鈴木智恵子（東女体大・㉒）、増子早苗（東女体大・㉔）、宮脇直美（東女体大・⑯）、内山美代子（東女体大・⑦）、田島豊子（東女体大・①）、西形あけみ（東女体大・⑩）、安藤昌子（日女体大・⑪）、鈴木陽子（学芸大・⑨）。

関西学生

○内数字は今回の遠征の総得点

2月28日から3月5日までハンブルグ、ブレーメンなど西ドイツ北部を転戦、男子5試合、女子6試合を行った。

▽男子

TSV・ザゼール	26	11－11	15－10	21	関西学生
TSV・ザゼール	26	12－14	14－9	23	関西学生
関西学生	21	12－9	9－11	20	TSV・リーステ
VfL・オルデンブルグ	27	11－13	16－9	22	関西学生
関西学生	24	12－10	12－10	20	SV・テウトニア

▽女子

関西学生	13	6－7	7－4	11	TSV・ザゼール
関西学生	19	12－9	7－8	17	MTV・ヘルッホルン
SC・Hユニオン03	20	10－4	10－7	11	関西学生
関西学生	14	6－5	8－2	7	TVS・アイントラット
VfL・オルデンブルグ	28	19－8	9－3	11	関西学生
関西学生	24	14－11	10－12	23	UTG・ウィッテン

【遠征メンバー】▽団長 小西博喜▽総務 山中善之祐▽総監督 早川清孝▽男子監督 宍倉保雄▽同コーチ 池本聡▽同主務 杉山和彦（京都産大）▽女子監督 山崎武▽同コーチ 土井秀和▽主務 葛原良昭（甲南）▽レフェリー 吉田博二、吉田敏明。

▽選手〈男子〉・GK山下直樹（京都産大）、植田豊海（大経大）・FP山本興道（大阪体大・⑮）、上野幹彦（大阪体大・⑧）、土山満晴（大阪体大・⑬）、菅沼誠（大阪体大・⑰）、高砂吉博（同志社・②）、盤江文崇（同志社・⑩）、奥畑理（同志社・①）、市川修（京都産大・②）、丸山憲一（京都産大・②）、中田親広（京都産大・⑦）、中野宏則（大阪経大・②）、吉川洋一（大阪経大・⑪）、土肥浩二（大阪経大・①）、長田健嗣（阪大・⑧）、水谷弘（阪大・⑤）、伊藤彰（近大・⑦）

〈女子〉・GK竹山容生（大阪体大）、田中早苗（大阪体大）、畑添真由美（武庫川女大）、三宅由恵（武庫川女大）・FP伊勢純世（大阪体大・㉖）、筒井久子（大阪体大・⑥）、池上由美（大阪体大・⑪）、森山真理子（大阪体大・⑱）、神並弘枝（武庫川女・⑰）、西田裕美子（武庫川女・①）、前田栄姫（武庫川女・⑨）岡田真由美（京都教大・①）、岡田明子（和歌山大・0）、正木浩子（成蹊女短大・②）

大阪高校（男子）

○内数字は今回の遠征の総得点

3月21日から4月4日まで西ドイツ各地を転戦、7試合を行ったが、3月27日の第4戦はドルトムント・ウエストハーレンホールに七千五百の大観衆を集めたヨーロッパ・IHFカップ準々決勝VfL・グンメルスバッハ（西ドイツ）×SC・ライプチヒ（東ドイツ）戦の前座試合として、VfL・グンメルスバッハ（ジュニア・チーム）と対戦した。

ハスロッホ選抜	17	9－7	8－5	12	大阪高校選抜
バルッツ州ジュニア・スターズ	26	15－8	11－6	14	大阪高校選抜
ニーダプライス	24	15－7	9－8	15	大阪高校選抜
VfL・グンメルスバッハ	21	11－13	10－7	20	大阪高校選抜
シュワルス・パイス	21	10－12	11－7	19	大阪高校選抜
GW・ダンケルセン	29	12－14	17－12	26	大阪高校選抜
ノルトマン・ポルタ	27	16－16	11－9	25	大阪高校選抜

8月に日韓高校交流

日本体協は、このほど中断していた日韓高校交歓スポーツ大会を今夏からアジア・ジュニアスポーツ交流の一環として〝復活〟させることになり、8月中旬ソウルでハンドボールなど8競技を行うことに決めた。

ハンドボールは、日本協会の意向で、3月の全国高校選抜大会（名古屋）の優勝校、男・愛知（愛知）、女・市邨学園（愛知）を代表とする。

第23回全日本男子実業団選手権

湧永薬品（広島）が圧倒的強味

2年連続4度目の優勝飾る

第23回全日本男子実業団選手権は5月13日から15日まで大阪市中央体育館に10チームが参加して行われた。

決勝は実に9年連続大同特殊鋼（愛知）×湧永薬品（広島）の顔合せとなり、湧永が一方的な経過で大同を圧倒、2年連続4度目の優勝を飾った。3位は日新製鋼（広島）。

▽1回戦

中村荷役運輸（東京）22（11－9、11－6）15 トヨタ車体（愛知）

三陽商会（東京）23（12－12、11－7）19 トヨタ自工（愛知）

▽2回戦

日新製鋼（広島）26（13－9、13－16）25 大崎電気（埼玉）

本田技研鈴鹿（三重）27（14－10、13－8）18 三景（東京）

湧永薬品（広島）32（16－10、16－7）17 中村荷役運輸

大同特殊鋼（愛知）23（11－7、12－9）16 三陽商会

○…日新が大崎にてこずった。大崎は前半、東江の技と長野の力でリード、後半にその好調を持ちこめば、と期待させたが、学生界のエース・西山（筑波大）を新加入させた日新は、攻撃陣に厚味と鋭さが生まれ、泉、徳田の活躍などで後半11分同点のあと、一気に逆転、17分23－19、追いすがる大崎を振り切った。

大同、湧永、本田はいずれも楽なペースで試合を進め、実力の差を見せつけた。世界選手権で目に負傷した蒲生（大同）が元気に復活、スタンドを安心させた。

▽敗者（順位）トーナメント1回戦

トヨタ車体 21（11－11、10－8）19 三景

大崎電気 23（13－7、10－6）13 トヨタ自工

▽同2回戦

三陽商会 28（15－7、13－9）16 トヨタ車体

大崎電気 19（9－8、10－5）13 中村荷役運輸

▽準決勝

湧永薬品 27（14－13、13－8）21 日新製鋼

○…湧永は、日新を勢いにのせては面倒といきなりスパートをかけたが、気負いすぎて凡失が多く15分4－4。

しかし、このあと態勢をたてなおして次の10分間を7－2でとったのが決め手となり、試合運びに一日の長を示した。日新は西山を加えてたしかに威力を増したが、彼がマークされた場合、どう戦うかが日本リーグまでの課題とみえた。

大同特殊鋼 24（15－8、9－7）15 本田技研鈴鹿

○…前半の戦かいぶりには、本田にも勝機を感じさせたが、大同は10分までに5点をあげ14－9とリード、以後の展開に余裕を持たせた。

本田は攻撃陣にもう一つまとまりがなく8分から22分までの得点はPTの3ゴールだけ。前半の粘りを空しいものにした。

▽7・8位決定戦

中村荷役運輸 18（8－9、10－7）16 トヨタ車体

▽5・6位決定戦

大崎電気 20（10－10、10－6）16 三陽商会

▽3・4位決定戦

日新製鋼 23（14－8、9－8）16 本田技研鈴鹿

	【本田】	得	【日新】	得
GK	大畑	0	西川	0
GK	中尾	0	三田	0
FP	佐々木	4	泉	3
FP	三本松	1	徳田	3
FP	長野	1	洞ケ瀬	4
FP	豊岡	4	脇若	1
FP	尾上	3	西山	9
FP	坂本	0	藤井	1
FP	猪野	0	森	2
FP	粟屋	0	甲斐	0
FP	高橋	1	一の瀬	0
FP	喜井	2	高木	0
PT	（2）	16	（1）	23

（審・新村、北岡）

○…後半5分11－10から日新は泉、藤井、西山の連続ゴールで4点差をつけた。

本田もすぐに追いかけたが、日新は洞ケ瀬の強打で優位をキープ。本田に反撃をあきらめさせた。

こうした試合運びは、これまでの日新になかったもの、4年前の3位より、はるかに評価してよい内容だった。

▽決勝

湧永薬品 20（12－5、8－4）9 大同特殊鋼

	【大同】	得	【湧永】	得
GK	柳川兄	0	井藤	0
GK	上村	0	福井	0
FP	蒲生	1	津川	1
FP	田口	2	池ノ上	5
FP	大原	2	山本	7
FP	中本	1	穂積	1
FP	浦田	2	生駒	4
FP	田中	0	志賀	0
FP	東谷	0	松本	1
FP	市川	0	戸田	1
FP	柳川弟	0	原田	0
FP	花輪	1	藤本	0
PT	（2）	9	（6）	20

（審・望月、光島）

○…9年連続10回目の対決にしては、あっ気なさすぎた。

湧永は、いきなり得た二本のPTを活かしたあと、蒲生を津川がマーク、意識的に〝売り出し〟中の田口へボールを集めさせた。成長を示す田口だが、まだ荒さがある。2分1点をあげたものの、そのあと8本の失敗で湧永に攻撃を許し、点差を開かれた。

後半、大同は6分7－9と迫ったが、湧永は守りを固める一方、生駒の強引なシュートと山本の切りこみで加点、15分13－8とし、終盤は元気をなくした大同を押しまくり、かつてない大勝となった。

★ベストセブン

・GK 井藤 英忠（湧永）①

・FP 津川 昭（湧永）⑥

生駒 靖夫（湧永）①

蒲生 晴明（大同）⑥

大原 真造（大同）②

西山 清（日新）①

佐々木信男（本田）①

・新人賞 西山 清（日新）

○内は受賞回数

連載・ハンドボールの技術セミナー

スカイプレーを考える

〈その2〉全日本高校選手権から

元中大附高監督　川上整司

　56年度のインターハイで、幸いにして、私は連続して17回の大会を観ることが出来た。その内の14回は、実際に監督として臨んだが、この間の技術的な変遷は著しいものがある。速攻チームが優位に立っていた時代、パスワーク中心のセット・フォーメションの一時期、両者を持ち備えたある年代の優勝チーム、といろいろと思い出される。日本中がより強い選手、強力なチームを創るために懸命だった。試行錯誤を繰り返しながら、私が関係した年月も、何んとふた昔を過ぎようとしている。

　また、個々には、この大会からミュンヘン・オリンピックの代表に選ばれた者もあり、そして次のモントリオールには、この世代が中心になって活躍した。正にこの大会がある面では、世界に羽ばたく登竜門であった。しかし、それに到達する選手はひと握りである。多くはそんなものではなく、友が好きだから走り、ハンドボールが好きであるからボールを追い、そして今日も相手チームを打倒するために、ハード・トレーニングに励むのだろう。

　そう、彼等はいま青春なのだ。こんな体験を次の時代にどのように生かして行くのだろう。そんなことを思いながら私は体育館の片隅で今年は観衆としてじっくりと観ることが出来た。試合は、一戦一戦が激戦で、技をかける選手達の一挙手一投足に目を凝らさずにはいられなかった。秋の国体や春の選抜にはない独特の雰囲気がここにはある。監督や選手達は、この大会に参加するまでに大変な苦労があったと思う。特に56年度の大会は、個人技向上はさることながら、コンビ、そしてチームプレーの上達には目を見張るものがあった。大物選手は目立たなかったが、正確なパス・キャッチ、そしてサイドやポストのシュート技術、全体的な動き、ローリングするオフェンスは過去17年の大会中随一であったように思う。そんな大会が東京で開かれたのを幸いに、ちょうど、全日本総合と同じ方法で魅力あるスカイプレーを調査してみた。

1　試合中に何回使われたか

　全13試合でスカイプレーは30回あり、成功回数はペナルティー・スローを入れて13回、失敗は17回であった。これは全日本総合選手権の結果と比較しても、非常に近い数字である。1試合中に試みた最高は、青森商対盛岡商で7回もあり、成功1回とペナルティに繋げたのが3回あった。

　最低でも各試合とも1回づつあり、これも総合選手権とよく似た結果である。特に確率の高かったのは、修道高の2本で、これは、1点を競う土壇場でスカイプレーを使って、果敢に攻め、2本とも鮮やかに成功させている。これを観た限りでは、スカイプレーを正確に使うことが出来るなら、勝負どころでは、非常に有効であることが証明されるが……。

2　どの位置から最後のパスが出されたか

　パスの流れの方向は、総合選手権と比較すると大きな違いが出た。

　全日本総合の場合は、最後のパスがゴール・キーパーから見て、左から右へ流れるパスが圧倒的に多かったが、高校生の場合は、いわゆるポストと言われる、C・D

＜表1＞　スカイ・プレーのチーム別試技数

チーム名	大石田	塔南	福岡工	駒大高	静岡農	岩井	明星	仙台一	下松工	法政	福岡工	函館有	高松南	大分東	修道	佐世保	修道	富岡	青森商	盛岡商	柏	青森商	盛岡工	松江工	富岡	巻	合計
得点	14	16	27	4	18	10	30	11	33	21	22	18	13	23	23	22	20	24	22	19	13	34	28	15	25	16	521
試技	1		1		1		1	1	2		2		1	2	2		1		6	1	1	2		2	2	1	30
成功			1		1				1						2		1		1			1			1	1	10
失敗	1						1	1	1		2		1	2					3		1	1		2	1		17
PT																			2	1							3

・Eゾーンへ向うパスが多く、勿論、左から右へのパスも多いが、右から左という逆の流れも利用していた。

全体的に見て多いのは、＜表2＞のとおり、G～Dが6回、A～Dが3回、以下K～D、F～D、I～A、B～Dと2回づつで、特に目立つのは、Dゾーンに、13試合中で30回試みたスカイ・プレーの中で、何んと18回もDゾーンに集めている。一つだけ良く似た流れがあり、これは、G～Dのパスで、高校生は6回で1位、総合選手権は5回で2位を示した型が流れとしては同型であり、これは、現在日本のスカイ・プレーのパターンでは、最も一般的な方法ではないかと思われる。総合選手権時にB～Aの6回、H～Aの4回と高い数字を示したのは、H・Bゾーンを巧みに攻撃をし、動作の早いモーションからフェイクをし、そして空中での正確なパスと、それに合わせてAゾーンから空間待ち、パスを受け、そのままシュートに結び付ける超一流の選手がいたために特に多くなったものとみられるのでそれを除けば、高校男子でも、一般男子でもG～Dのパターンが最も多く使われる攻撃方法であることがこの調査でも証明出来る。

また、高校生の場合は、最後のパスがフリー・スロー・ラインの外側から出ている例が9本もあった。総合選手権では、Hゾーンの4回を除くと何人とKゾーンで1回、Lゾーンで1回とたったの2回である。高校生の守備の傾向としてあまり遠くに出てチェックしてないために、自由にオフェンス側のフローターはプレー出来るのではないか。その点、大学日本リーグの選手は、守備の詰めが早く、そして、その範囲が広い。6人の中の1人は、シュート、あるいは、シュートに繋ぐパスの動作と思われる動きに対しては、ピタリ付き部分マンツーを有効に生かしているためもあって、その部分からのパスは、なかなか困難ではないかと思われる。高校生は守備技術より攻撃技術が勝っているために、ある程度のフォーメションが生かされるようだ。

図　どの位置から最後のパスが出されたか

＜表2＞

最後のパスの流れ	回数	成功	失敗	成功率
G～D	6	3	3	0.50
A～D	3	1	2	0.33
K～D	2	2		1.00
F～D	2		2	0.00
I～A	2		2	0.00
B～D	2	1	1	0.50
I～D	1		1	0.00
C～D	1		1	0.00
E～D	1	1		1.00
J～A	1		1	0.00
C～A	1	1		1.00
E～A	1	1		1.00
I～B	1		1	0.00
A～C	1		1	0.00
K～C	1	1		1.00
I～E	1		1	0.00
G～E	1		1	0.00
A～E	1	1		1.00
F～E	1	1		1.00
合　計	30	13	17	0.43

3　時間的に見た使い方

全日本総合では、前半、30分の前半、15分では、1回、後半15分からは、13回もあり、後半に入っても同様に15分後に多用されていた。それらが高校では、前後半共に殆んど同数であり、早い時間からそれも開始5分以内で5回も試技があった。

それらについては、チーム毎にどのような場面でどのような指示によって試みるのか定かではないので何んとも言えないが、一般のチームでは、フリーオフェンスの中で自由に一つのコンビ・プレーのように使われているような気がしたが、高校生の場合は、監督やコーチ、あるいは選手の一人によって、サインにより指示され、試みているように見られた。それだけのことでは、裏付けにはならないので、後、幾つかの大会を分析し、さらに試合後、各チームに、その場面の説明をして載くことによって、より具体化してくるのではなかろうかと思っている。

＜表3＞　3 時間的に見た使い方

時　間		0分～5分	5分1秒～10分	10分1秒～15分	15分1秒～20分	20分1秒～25分	合計
前半	試技	2	3	1	1	3	10
	成功	1	1	1	1	2	6
後半	試技	3	4	5	4	4	20
	成功		2	2	1	2	7

4　点差での比較

クロス・ゲームでスカイ・プレーを使い、気分的に試合を盛り上げ、そして勝利を掴んだ例も過去には沢山あった。しかし相当な準備がない限り、不用意にそれを使うわけにはいかない。

フォーメーションは、勝負どころで生かせなければ、意味をなさないと思うし、スタンドの観衆を喜ばせるのは、こんな場面ではないだろうか。スカイ・プレーの技

術的な部分と同時に、何時、どこで、どのパターンを使うかが重要な要素である。同点と1点リードで5回、1点リードされている場面で3回、さらに2点リードされた場面で3回と同点から2点差まで合計11回と、非常にこの大会では、接戦でスカイプレーを使っていた。つまり、13試合中、スカイ・プレーの試技が30回、その中で11回は最初から指導権を握ろうと工夫したり、最終の勝負どころで使っていることを考えると大変なところで大勝負に出ていることに気付く。

　各監督の練習で修得した自信、成功への計算、そしてワンポイントを得た次への意気等を踏まえての仕掛けは素晴しいものだった。逆に10点以上では、7回で、大差がついてからは、非常に少なくなっていることが分る。特に接戦でペナルティースローの応酬が続いたのは、青森商対盛岡商の一戦で実に同点から2点差迄の間で7回もあった。まず、前半、試合開始3分45秒で1点リードされた青森商がG～Dのパターンでまず試みた。これはキャッチ・ミスで失敗、さらに23分30秒、8対8からE～Dというジャンプ・シュートモーションからポストで待つ選手に繋いだ。これはペナルティーとなる。そのペナルティーを見事に防いだ盛岡商は同点の8対8からキーパーから見て右45度のロングシュート、モーションから右コーナーへパス、コーナーで待つ選手は、そのままエリア内に跳んでキャッチそして逆ポストの45度へと繋いでチャンスを掴んだが反則されて、これまたペナルティーとなる。そして後半に入ってもシーソーゲームは展開され、その中でもスカイプレーは続けられた。

　6分30秒、盛岡2点リードで青森商がC～Dのパターンで繋ぐが、これはシュート・ミスで失敗さらに7分42秒、1点差と詰め寄ってB～Dで鮮かに得点し、14対14とし、大いに盛り上がる。盛岡が2点リードしたところで（15分42秒）青森商は、その後、再びI～Bと繋いだが失敗に終る。そして1点差となった19分5秒、17対18からKゾーンでジャンプシュートモーションからポストDのエリアにパスし、反則にあったがペナルティーを取る。試合結果は、22対19で青森商が勝利を握った。

　最後になんと言っても、大会随一のスカイ・プレーは、修道対佐世保の大接戦の中でクライマックスに入った24分45秒、22対22で修道が勇気を持って、最後の最後で試みたプレーで、何度かパスを繰り返し呼吸を整えて、取って置きのフォーメション・スカイプレーでG～Dと繋いだ。これがものの見事に決まり、試合を決定づけたのは実に素晴しいシーンだ。

5 最後に

　スカイプレーを完成させるには多くの時間を費やすことは、ここで改めて言うまでもないことだが、他の攻撃方法、ロングやミドル、ポスト、サイド、さらにはブロック、カットイン、スクリーン等のプレートと比較し、また試合での効率、練習で修得出来る時間、試合の展開を読んで、そしてそれに対して臨機応変に試みる時のパターンの選択の難易度などを考えると必ずしもスカイプレーが効率の高い攻撃法だとは思えない。

　従って次回はスタイプレーだけでなく各攻撃パターンを調査し、どの方法が比較的高いかを調べ、そのうえで考察したいと思う。

<表4> 点差での比較

イ）リードしている場面での試技と得点

得点差		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11点以上	合計
前半	試技	3	1		1	1		1		1				8
	成功	2	0		1	1		1		0				5
後半	試技	1					2			1		2	3	9
	成功	1					1			1		1	1	5

ロ）リードされている場面での試技と得点

得点差		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11点以上	合計
前半	試技		1	1										2
	成功			1										1
後半	試技		2	2	1		1		2		1	1	1	11
	成功		2	0	0		0		0		0	0	0	2

●海外トピックス

ブルガリアが初優勝

世界選手権Cグループ

第3回世界男子選手権Cグループは、2月7日から13日までベルギーのニールペルト、ルベッケなどの各都市にヨーロッパ地域の10カ国が参加して行われた。

競技は、5カ国づつ2組の予選リーグのあと各組上位4カ国が決勝リーグへ進出、1、2位にBグループ（58年2月・オランダ）への出場権が与えられる仕組みで争われた。

予選リーグA組では、めきめき腕をあげているイタリアが、ノルウェーに善戦、終盤逆転されたもののみごとな戦かいぶりをみせた。

同B組は、地元ベルギーが独走2位をめぐって大混戦となり、オーストリア、ポルトガル、ルクセンブルグの激しい星のつぶし合いからオーストリアが辛くも脱出した。

ブルガリア、ノルウェー、ベルギー、オーストリアによる決勝リーグは、Bグループ昇格をめぐって、エキサイトした展開となったが、Aグループ級の実力を持つといわれるブルガリアが、最終戦ベルギーの食い下りを許したものの安定した攻守で初優勝した。

2位はベルギー×ノルウェー戦にかけられ、好試合となったが、地元一色の二千ファンで埋めつくされた館内の声援に勇気を得たベルギーが、前半6点差の優位に立ち、強敵を退け、Bグループ行きを決めた。

ブルガリア、ベルギー以外の国は、この時点でロサンゼルス・オリンピックへの道を断たれたことになる。

▽予選リーグA組

ファロー諸島 26―10 イギリス
ブルガリア 23―18 イタリア
イタリア 27―15 イギリス
ノルウェー 23―17 ファロー諸島
ノルウェー 20―19 イタリア
ブルガリア 25―13 イギリス
ブルガリア 26―16 ファロー諸島
ノルウェー 42―11 イギリス
イタリア 31―29 ファロー諸島
ブルガリア 23―19 ノルウェー

【順位】①ブルガリア4戦全勝②ノルウェー3勝1敗③イタリア2勝2敗④ファロー諸島1勝3敗⑤イギリス4敗。

▽同B組

ベルギー 22―12 フィンランド
ルクセンブルグ 21―19 オーストリ
ルクセンブルグ 22―22 フインラン
ベルギー 21―20 ポルトガル
ポルトガル 26―21 ルクセンブルグ
オーストリア 24―17 フインランド
ベルギー 22―19 ルクセンブルグ
オーストリア 20―19 ポルトガル
ベルギー 16―14 オーストリア

【順位】①ベルギー4戦全勝②オーストリア2勝2敗③ポルトガル2勝2敗④ルクセンブルグ1勝1分2敗⑤フインランド1分3敗。

▽9・10位決定戦

フインランド 38―9 イギリス

▽7・8位決定戦

ファロー諸島 27―23 ルクセンブルグ

▽5・6位決定戦

イタリア 30―23 ポルトガル

▽決勝リーグ

ベルギー 22（8―9 14―8）17 ノルウェー
ブルガリア 32（14―11 18―8）19 オーストリア
ノルウェー 29（17―9 12―6）15 オーストリア
ブルガリア 19（12―9 7―8）17 ベルギー

ブルガリア×ノルウェー、ベルギー×オーストリアは予選リーグの記録を適用。

【順位】①ブルガリア3戦全勝②ベルギー2勝1敗③ノルウェー1勝2敗④オーストリア3敗。

7大会の勝者決まる

～ヨーロッパ・カップ～

昨秋からヨーロッパのファンを

沸かせていたヨーロッパ・カップ決勝戦の結果を――。まず、男子では、伝統の第26回ヨーロッパカップでホンブド・ブダペストがハンガリーに初のタイトルをもたらした。

決勝の相手、TSV・セント・オトマール・ゴール（スイス）は、準決勝までに強豪を次々となぎ倒して進出、注目されていたが、ブダペストはエース、P・コバクスの活躍を軸に第1戦25―16、第2戦24―18で連勝、優勝を飾った。

第7回ヨーロッパ・カップ・オブ・カップス（ウイナーズ・カップ）は、SC・エムポール・ロストク（東ドイツ）が、デュクラ・プラハ（チェコ）と対戦、第1戦14―17で敗れながら、ホームコートの第2戦を22―18でとり、通算36―35で劇的な逆転初優勝。

今季創設のIHFカップはVfL・グンメルスバッハ（西ドイツ）×RK・ゼルイエスニカ・サラエボ（ユーゴ）の一発勝負で争われ、グンメルスバッハが23―14で初代チャンピオンとなった。

一方、女子は第21回ヨーロッパ・カップで、過去7回優勝の名門スパルタ・キエフ（ソ連）が、準決勝でバサス・SC・ブダペスト（ハンガリー）に敗退する大波乱があり、決勝はブダペストとRK・ラドニツキ・ベルグラード（ユーゴ）の顔合せとなり、第1戦を21―24で落としたブダペストが、第2戦29―19で大逆転、初のクイーン。

第5回ヨーロッパ・カップ・オブ・カップスはRK・オシエク（ユーゴ）×SC・スパルタカス・ブダペスト（ハンガリー）は、オシエクが27―21、27―17でストレート勝ちして初優勝。オシエクの主軸イレシュは近く来日、立石電機入りするが、この2試合で10ゴールをあげ、栄冠獲得に貢献した。

第1回IHFカップはHK・トレスニエフカ・ザグレブ（ユーゴ）メイグル・ヴイルニウス（ソ連）は第1戦30―27、第2戦17―19のタイからザグレブが勝った。

◇

第4回ヨーロッパ・ゴールデンカップはヨーロッパ・カップの勝者、ホンブド・ブダペストと、ウイナーズ・カップの勝者、SC・エムポール・ロストックの間で、5月23日ロストックを会場に選んで行われ21―21で延長、第1延長4―4（25―25）、第2延長でようやくロストックが主導権を握り、31―27で快勝、王者となった。

テーマは「人間と機械」
OMRON
いらっしゃいませ
残高照会
お引出
ご預金
ご送金
通帳記入
ご用件のキーを1つお押しください
※押さずにカードをお入れになりますとお引出になります
人間と機械との対話。
機械化、無人化がすすみ、人間と機械との関わりあいが深まるにつれ、より扱いやすく、より親切な機械の開発が望まれてきました。目から、耳から、人間との対話をはかろうとする試みがそれです。
すっかりおなじみになった銀行の機械化コーナー。そこでは、CRTを採用した操作案内で、きめ細かなメッセージをおとどけしている支払機や預金機が。レストランでは、表示・レシートをもカナ文字ででてくる電子レジスタが…。
このように、オムロンは"人間と機械との対話"を推し進めながら、その新しい歴史をつくっています。
OMRON小形現金自動預金支払機
預金・支払・両替・記帳・残高照会…など、目的にあわせて、CRTでわかりやすく操作案内。だれもが間違いなくスムーズに使いこなすことができます。
OMRON
800
OMRON電子レジスタ591-IRC
価格だけでなく、カナ文字で品名をも表示、さらにレシートにも同じカナ文字で印字。明瞭で気もちよい会計が行なえます。
OMRON
立石電機
立石電機株式会社
〒616京都市右京区花園土堂町10
TEL075(463)1161大代

各地の記録

◆第12回鳥取県室内総合選手権
（3月21・22日）

＜男子＞

▽1回戦
- 倉吉ク 26－14 関金ク
- 倉吉工高 不戦勝 米子北高
- 倉吉東高 18－17 米子東高

▽2回戦
- 境港市ク 31－8 倉吉ク
- 中部ク 31－19 かしのはク
- 境高 33－16 倉吉工高
- 境港工高 30－9 倉吉東高

▽準決勝
- 境港市ク 23（11－6、12－5）11 中部ク
- 境港工高 25（14－4、11－17）11 境高

▽決勝
- 境港工高 28（18－9、10－16）25 境港市ク

＜女子＞

▽1回戦
- 倉吉西高 15－10 米子東高
- 倉吉産高 22－6 境高
- 米子南商高 28－11 米子北高

▽準決勝
- 米子ク 24（14－3、10－5）8 倉吉西高
- 倉吉産高 11（8－6、3－4）10 米子南商高

▽決勝
- 米子ク 26（14－2、12－1）3 倉吉産高

◆三重県春季高校大会
（4月11、18日）

＜男子＞

▽1回戦
- 四日市工 38－4 亀山
- 日生第二 14－7 四日市
- 桑名 28－10 津工
- 海星 13－11 四日市南

▽2回戦
- 四日市工 20－8 桑名工
- 桑名西 25－6 日生第二
- 桑名 20－10 四日市西
- 尾鷲 29－8 海星

▽準決勝
- 桑名 13（6－7、7－5）12 尾鷲
- 四日市工 19（14－3、5－4）7 桑名西

▽3位決定戦
- 尾鷲 19（11－5、8－6）11 桑名西

▽決勝
- 四日市工 17（8－3、9－5）8 桑名

＜女子＞

▽1回戦
- 四日市 26－7 松阪女
- 泗商 29－2 津西
- 津女 12－0 四日市南
- 四日市西 23－10 桑名北
- 上野 9－5 桑名

▽2回戦
- 暁 36－7 四日市
- 泗商 11－6 亀山
- 津女 29－2 四日市西
- 上野 8－3 尾鷲

▽準決勝
- 津女 9（6－3、3－1）4 上野
- 暁 10（5－3、5－5）8 泗商

▽3位決定戦
- 上野 8（4－4、4－3）7 泗商

▽決勝
- 暁 8（4－3、4－2）5 津女

◆第37回岡山県高校春季大会兼第21回岡山県高校総体予選
（4月17・18・24日）

＜男子＞

▽1回戦
- 岡山工 27－8 玉野
- 朝日 20－8 矢掛
- 倉敷商 21－7 邑久
- 金川 17－13 東岡山工
- 操山 14－10 一宮
- 大安寺 15－14 倉敷南
- 総社 20－3 吉備
- 津山 11－10 成羽
- 古城池 26－16 西大寺
- 児島 17－5 井原
- 倉敷工 16－6 青陵
- 芳泉 30－3 高梁工
- 津山工 17－14 和気
- 落合 20－6 津山商

▽2回戦
- 天城 19－13 岡山工
- 倉敷商 21－6 朝日
- 操山 21－12 金川
- 総社 21－9 大安寺
- 古城池 18－12 津山
- 倉敷工 12－10 児島
- 芳泉 14－11 津山工
- 水島工 24－17 落合

▽3回戦
- 天城 15－14 倉敷商
- 総社 22－13 操山
- 古城池 26－14 倉敷工
- 水島工 16－10 芳泉

▽準決勝
- 天城 28（16－8、12－14）22 総社
- 水島工 32（14－11、18－13）24 古城池

▽決勝
- 天城 24（12－12、12－6）18 水島工

＜女子＞

▽1回戦
- 芳泉 5－3 朝日

▽2回戦
- 総社 15－4 芳泉
- 操山 10－4 津山
- 倉敷南 13－8 大安寺
- 西大寺 10－4 古城池
- 天城 10－3 児島
- 落合 19－4 井原
- 真備 14－10 一宮
- 倉敷商 22－2 津山商

▽3回戦
- 総社 12－5 操山
- 西大寺 19－3 倉敷南
- 天城 23－8 落合
- 倉敷商 20－7 真備

▽準決勝
- 総社 12（4－3、8－7）10 西大寺
- 天城 14（8－7、6－4）11 倉敷商

▽決勝
- 総社 16（8－6、8－5）11 天城

◆第34回中国高校選手権鳥取県予選会
（4月17・18日）

＜男子＞

▽1回戦
- 倉吉工 31－2 米子北
- 米子東 12－11 倉吉東
- 境 39－7 米子西

▽2回戦
- 境港工 44－7 倉吉工
- 境 18－13 米子東

▽決勝
- 境港工 18（9－7、9－9）16 境

＜女子＞

▽1回戦
- 米子東 12－9 米子北
- 倉吉西 13－8 境

▽2回戦
- 倉吉産 23－7 米子東
- 米子南商 18－5 倉吉西

▽決勝
- 米子南商 11（4－1、7－2）3 倉吉産

◆第27回中国一般選手権鳥取県予選会
（4月18日）

＜男子＞
▽1回戦
境港市ク 32－6 倉吉ク
中部ク 32－19 米子高専
▽3位決定戦
米子高専 16－15 倉吉ク
▽決勝
境港市ク 29（14－14、15－8）22 中部ク

◆三重県春季中学校大会（4月18・25日）

＜男子＞
▽1回戦
四日市南 24－11 亀山
東員 20－14 鼓ケ浦
白子 25－11 菰野
▽準決勝
西笹川 21（8－6、13－2）8 四日市南
白子 22（10－5、12－4）9 東員
▽決勝
西笹川 20（11－3、9－6）9 白子
＜女子＞
▽1回戦
北勢 18－4 塩浜
亀山 16－10 明和
▽2回戦
笹川 13－7 赤目
大安 14－7 羽津
西朝明 30－7 柘植
西笹川 36－1 北勢
鼓ケ浦 12－11 北中
朝明 17－12 東員
桔梗ケ丘 20－6 四日市南
菰野 14－6 亀山
▽3回戦
大安 10－9 鼓ケ浦
朝明 25－15 西朝明
西笹川 38－2 笹川
菰野 13－4 桔梗ケ丘
▽準決勝
西笹川 24（13－6、11－3）9 大安
菰野 13（4－5、9－3）8 朝明
▽決勝
西笹川 18（8－6、10－4）10 菰野

◆東京都高校春季大会兼関東大会予選（4月18・25・29日、5月2・3・5日）

＜男子＞
▼予選トーナメント
○Aグループ
▽1回戦
豊多摩 棄権 南
井草 24－15 筑波大駒場
石神井 20－9 東
青山学院 23－22 成城
早稲田実業 18－14 農大一高
練馬 25－4 蒲田
▽2回戦
井草 31－16 豊多摩
光丘 11－9 石神井
調布北 29－6 日野台
府中 23－8 小平西
南葛飾 24－16 青山学院
練馬 21－8 早稲田実業
砂川 25－15 八王子東
富士森 16－15 五商
▽3回戦
井草 25－19 光丘
調布北 13－12 府中
南葛飾 19－15 練馬
砂川 15－6 富士森
▽4回戦
井草 25－13 調布北
南葛飾 18－11 砂川
▽5回戦
明星 31－15 井草
国立 14－9 南葛飾
▽決勝
明星 26（14－3、14－6）9 国立
○Bグループ
▽1回戦
葛飾野 30－7 武蔵工大付
西 15－10 篠崎
杉並 15－13 修徳
創価 12－0 久留米
富士 30－3 荻窪
早大学院 40－0 水元
明正 棄権 葛西南
明星学園 26－12 福生
▽2回戦
西 21－16 葛飾野
三宅 21－12 杉並
清瀬 不明 創価
中大付 36－12 秋川
富士 24－10 学芸大付
早大学院 15－7 明正
明星学園 22－8 錦城
東大和 13－7 清瀬東
▽3回戦
三宅 21－11 西
中大付 27－11 清瀬
富士 20－8 早大学院
明星学園 18－13 東大和
▽4回戦
中大付 19－15 三宅
富士 26－9 明星学園
▽5回戦
中大付 29－11 拓大一
佼成学園 26－12 富士
▽決勝
中大付 19（11－12、8－4）16 佼成学園
○Cグループ
▽1回戦
城北 22－12 向丘
大泉 棄権 駿台学園
日野 43－4 羽村
本所 棄権 武蔵丘
▽2回戦
昭和 19－16 武蔵村山
府中西 24－9 武蔵
小岩 46－13 城北
大泉 20－14 筑波大付
三鷹 30－8 忠生
日野 17－16 東村山
江北 18－13 青山
本所 22－11 上野
▽3回戦
府中西 26－6 昭和
小岩 27－13 大泉
日野 17－11 三鷹
江北 12－5 本所
▽4回戦
府中西 18－9 小岩
日野 21－9 江北
▽5回戦
駒大 22－12 府中西
神代 15－5 日野
▽決勝
駒大 16（6－8、10－7）15 神代
○Dグループ
▽1回戦
館 13－10 南野
目黒 32－7 高島
開成 21－20 墨田川
小金井北 19－3 保谷
新宿 29－16 深川
江戸川 19－11 広尾
大泉北 21－9 日大二
▽2回戦
国分寺 31－6 昭和一工
府中東 25－7 館
目黒 21－12 白
開成 28－9 両国
小金井北 棄権 片倉
立川 33－12 野津田
新宿 34－11 大崎
江戸川 13－12 大泉北
▽3回戦
国分寺 14－11 府中東
目黒 17－15 開成
立川 20－10 小金井北
新宿 21－10 江戸川
▽4回戦
国分寺 15－11 目黒
立川 24－18 新宿

▽5回戦
国分寺 15―14 雪ケ谷
日体荏原 不明 立川
▽決勝
日体荏原 28（13―2 15―6）8 国分寺
▼決勝リーグ戦
明星 26―11 駒大
明星 34―15 中大付
明星 21―17 日体荏原
日体荏原 24―16 駒大
日体荏原 29―20 中大付
駒大 28―22 中大付
（順位①明星②日体荏原③駒大④中大付）
＜女子＞
▼予選トーナメント
○Aグループ
▽1回戦
光ケ丘 棄権 本所
府中 24―2 共立二
篠崎 9―4 上野
▽2回戦
石神井 14―5 豊多摩
光ケ丘 7―6 雪ケ谷
調布北 12―5 明星学園
府中 20―3 永山
篠崎 23―6 三商
富士 13―3 明星
福生 19―9 武蔵野女
東大和 11―4 神代
▽3回戦
石神井 7―4 光ケ丘
府中 9―6 調布北
篠崎 10―9 富士
東大和 18―9 福生
▽4回戦
府中 16―2 石神井
東大和 19―4 篠崎
▽5回戦
藤村女 17―7 府中
東大和 14―5 拓大一
▽決勝
藤村女 17（7―0 10―2）2 東大和
○Bグループ
▽1回戦
広尾 7―5 目黒
菊華 棄権 水元
国立 10―7 八王子東
▽2回戦
葛飾商 棄権 向島商
広尾 28―0 関東女
日野 16―4 小平
五商 31―1 拝島
江戸川 18―6 菊華
荻窪 11―4 両国
国立 10―9 砂川
保谷 6―5 富士森
▽3回戦
広尾 15―1 葛飾商
日野 18―5 五商
江戸川 10―6 荻窪
国立 7―4 保谷
▽4回戦
日野 18―4 広尾
江戸川 8―7 国立
▽5回戦
日野 12―6 東村山
三宅 29―2 江戸川
▽決勝
三宅 9（5―1 4―2）3 日野
○Cグループ
▽1回戦
南葛飾 10―7 練馬
一商 6―5 大泉
▽2回戦
南野 16―2 北多摩
武蔵村山東 18―14 二商
小岩 11―5 白
立教女学院 16―12 南葛飾
国分寺 22―3 府中西
府中東 9―3 日野台
農大一 12―5 一商
日大二 棄権 目白学園
▽3回戦
武蔵村山東 13―1 南野
立教女学院 11―4 小岩
国分寺 4―2 府中東
農大一 18―4 日大二
▽4回戦
立教女学院 13―7 武蔵村山東
国分寺 20―5 農大一
▽5回戦
佼成女 29―5 立教女学院
国分寺 23―10 井草
▽決勝
佼成女 19（9―10 10―4）14 国分寺
○Dグループ
▽1回戦
武蔵丘 7―6 潤徳女
武蔵 12―0 館
西 22―4 園芸
▽2回戦
日体桜華 棄権 羽村
久留米 11―7 聖徳学園
青山学院 11―7 深川
江東商 14―3 武蔵丘
昭和 14―3 南多摩
武蔵 12―3 吉祥女
西 8―6 四谷商
墨田川 12―7 杉並
▽3回戦
日体桜華 11―3 久留米
江東商 13―4 青山学院
昭和 17―2 武蔵
西 18―7 墨田川
▽4回戦
日体桜華 11―6 江東商
西 10―7 昭和
▽5回戦
桐朋女 12―8 日体桜華
桜水商 16―3 西
▽決勝
桜水商 13（6―2 7―5）7 桐朋女
▼決勝リーグ戦
佼成女 15―14 藤村女
佼成女 16―11 三宅
佼成女 14―8 桜水商
三宅 15―10 藤村女
三宅 15―7 桜水商
藤村女 6―6 桜水商
（順位）①佼正女子②三宅③藤村女子④桜水商

◆第20回神奈川県総合体育大会
（4月18・25・29日・5月5日）

＜男子＞
▽1回戦
横浜商工 30―18 横浜商大
和泉 23―18 法政二
川和 18―15 生田
多摩 20―12 慶応
▽準決勝
横浜商工 22（13―3 9―7）10 和泉
多摩 15（7―7 8―6）13 川和
▽決勝
横浜商工 22（10―9 6―7 3―2 3―0）18 多摩
＜女子＞
▽1回戦
相模原 11―8 明倫
和泉 11―8 百合丘
成美学園 9―7 平塚江南
金井 12―3 逗子
▽準決勝
相模原 12（7―1 5―4）5 和泉
成美学園 9（6―2 3―5）7 金井
▽決勝
成美学園 11（7―3 4―3）6 相模原

◆石川県春季高校大会
（4月24・25・29日）

＜男子＞
▽1回戦
小松工 28―15 小松
金沢市工 25―9 金沢商
松陵工 27―15 松任

石川県工 21―13 小松商
錦丘 32―18 大聖寺
羽咋 23―20 泉丘
寺井 21―19 星稜
小松明峰 23―15 向陽

▽2回戦
小松工 36―10 金沢市工
石川県工 25―21 松陵工
錦丘 21―17 羽咋
小松明峰 34―6 寺井

▽準決勝
小松工 25（12―3、13―7）10 石川県工
小松明峰 29（16―9、13―8）17 錦丘

▽決勝
小松工 26（13―4、13―6）10 小松明峰

＜女子＞

▽1回戦
金沢商 15―4 加賀
松任 8―6 星稜
小松明峰 17―9 短大高

▽準決勝
小松商 13（7―1、6―3）4 金沢商
小松明峰 22（13―1、9―5）6 松任

▽決勝
小松商 8（4―4、4―1）5 小松明峰

◆第18回茨城県一般春季大会
（4月25・29日）

＜男子＞

▽1回戦
日本原研 20―20 筑波大
筑波ラバーズ 19―16 鉾田ク
自衛隊勝田 25―17 筑波会

▽2回戦
日本原研 12―0 茨城大
筑波振球会 23―11 常陽銀行
筑波ラバーズ 12―0 茨苑ク
笠間ク 23―14 自衛隊勝田

▽準決勝
笠間ク 27（15―5、12―5）10 筑波ラバーズ
筑波振球会 25（10―12、15―8）22 日本原研

▽決勝
筑波振球会 25（10―14、15―8）20 笠間ク

＜女子＞

▽1回戦
笠間ク 12―0 茨城大
桜芽ク 22―7 筑波ラバーズ

▽決勝
笠間ク 16―12 桜芽ク

◆富山県春季高校選手権大会
（4月28日・5月2・3・5日）

＜男子＞

▽1回戦
小杉 23―15 富山工
高岡 不明 高岡商
富山南 22―14 富山

▽2回戦
氷見 31―12 小杉
富山工専 27―9 富山東
富山中部 16―14 大沢野工
高岡 23―21 雄山
八尾 27―6 二上工
高岡 15―14 富山
新湊 20―11 伏木
高岡向陵 41―4 富山南

▽3回戦
氷見 35―6 富山工専
高岡 30―11 富山中部
八尾 25―10 高岡南
富山南 39―13 新湊

▽準決勝
氷見 （不明） 高岡
高岡向陵 30（12―6、18―5）11 八尾

▽決勝
高岡向陵 17（13―4、4―6）10 氷見

＜女子＞

▽1回戦
富山女 24―3 高岡
新湊 17―8 雄山
高岡向陵 14―9 富山女短付
小杉 27―10 清光女
高岡女 8―6 富山北部

▽2回戦
有磯 17―5 富山女
高岡向陵 30―6 新湊
小杉 18―2 高岡第一
高岡商 11―6 高岡女

▽準決勝
高岡向陵 12（6―3、6―7）10 有磯
高岡商 21（8―3、13―2）5 小杉

▽決勝
高岡商 13（7―2、6―7）9 高岡向陵

◆福井県前期選手権大会
（5月1・2・9日）

＜高校男子＞

▽1回戦
福井商 17―13 藤島

▽2回戦
北陸 25―12 福井商
羽水 17―12 武生
高志 23―12 科技
丹南 28―15 勝山

▽準決勝
北陸 24（13―8、11―3）11 羽水
高志 34（18―4、16―6）10 丹南

▽決勝
北陸 16（9―4、7―5）9 高志

＜高校女子＞

▽1回戦
北陸 12―8 羽水
福井商 21―2 藤島
武生商 16―2 科技
仁愛 31―1 福井女

▽準決勝
福井商 15（11―10、4―4）14 北陸
仁愛 14（5―2、9―4）6 武生商

▽決勝
仁愛 13（8―1、5―2）3 福井商

＜一般男子＞

▽1回戦
九頭龍ク 23―15 ボンバーズ

▽2回戦
北陸電力 12―0 羽球会
光陽会 33―15 藤島ク
高志OB 15―14 スターズ
福井教員 28―10 九頭龍ク

▽準決勝
北陸電力 22（14―5、8―7）12 光陽会
福井教員 22（12―7、10―2）9 高志OB

▽決勝
福井教員 33（15―9、18―6）15 北陸電力

◆第32回全九州高校選手権福岡県予選
（5月2・3日）

＜男子＞

▽1回戦
久工大附 32―11 博多工
宗像 23―7 小倉工
新宮 26―20 九州産業
小倉西 17―11 西南
福岡 21―20 福岡工
西陵 24―6 筑紫丘
三池 18―12 東海大五
若松 18―10 春日

▽2回戦
久工大附 27―8 宗像
新宮 19―14 小倉西
西陵 13―10 福岡
三池 17―13 若松

▽準決勝
久工大附 32（17―7、15―11）18 新宮
西陵 18（11―9、7―6）15 三池

▽決勝

久工大附 40（24－4 16－8）12 西陵

〈女子〉

▽1回戦

筑紫中 9－7 春日
若松 7－6 浮羽

▽2回戦

香椎 24－6 筑紫中
東海大五 23－6 福岡女
筑紫女 14－3 宗像
福岡 12－9 若松

▽準決勝

香椎 13（7－6 6－5）11 東海大五
筑紫女 13（7－3 6－5）8 福岡

▽決勝

筑紫女 14（8－5 6－7）12 香椎

◆富山県春季一般選手権（5月3・5日）

〈男子〉

▽1回戦

富山教員 30－22 想球会
北嶺会 21－18 富山大

▽2回戦

富山教員 20－17 氷見ク
射水ク 11－10 八尾クB
向陵ク 20－20 八尾クA（2 PTC 1）
氷見シニヤ 26－11 北嶺会

▽準決勝

富山教員 20（11－6 9－9）15 射水ク
氷見シニヤ 26（13－10 13－11）21 向陵ク

▽決勝

富山教員 25（12－11 13－11）22 氷見シニヤ

〈女子〉

▽1回戦

有磯OG 17－9 桜球会
想球会 14－6 高女OG

▽決勝

想球会 14（1－2 0－2 6－4 4－6）11 有磯OG

◆第32回青森県高校選手権（5月8・9日）

〈男子〉

▽1回戦

五所川原 21－11 七戸
弘前南 19－17 十和田工
横浜分 20－10 青森南
三本木 15－10 青森
青森東 28－17 柏木農

▽2回戦

青森商 36－22 五所川原
横浜分 21－14 弘前南
三本木 14－11 鰺ケ沢
野辺地 22－18 青森東

▽準決勝

青森商 27（15－5 12－6）11 青森南
野辺地 24（12－5 12－5）10 三本木

▽決勝

青森商 25（16－10 9－6）16 野辺地

〈女子〉

▽1回戦

野辺地 17－4 青森東
七戸 15－10 青森中央
青森商 14－7 三本木

▽準決勝

青森西 16（8－4 8－7）11 野辺地
青森商 11（9－4 2－4）8 七戸

▽決勝

青森西 13（6－5 7－5）10 青森商

◆茨城県一般クラブ選手権兼関東クラブ選手権予選（5月9・16日）

〈男子〉

▽1回戦

土浦ク 21－17 土浦三OB
麻生ク 19－16 鉾田ク

▽準決勝

筑波振球会 31（17－8 14－7）15 土浦ク
麻生ク 21（3－3 9－6 9－12）21 不明（3 PT 2）

▽決勝

筑波振球会 24（12－9 12－9）18 麻生ク

◆関東高校茨城県予選（5月11・12日）

〈男子〉

▽1回戦

岩井 28－8 岩井西
土浦三 24－21 笠間
鉾田一 17－7 下館一
土浦工 13－11 江戸川
竹園 18－9 日立工
太田一 13－11 水戸一
水海道一 26－15 石岡一
古河三 24－12 土浦一

▽2回戦

岩井 20－9 土浦三
土浦工 16－8 鉾田一
竹園 26－9 太田一
水海道一 27－14 古河三

▽準決勝

岩井 17（8－7 9－5）12 土浦工
水海道一 16（8－9 8－6）15 竹園

▽3位決定戦

土浦工 15（7－6 8－7）13 竹園

▽決勝

岩井 19（11－6 8－6）12 水海道一

〈女子〉

▽1回戦

水海道二 11－3 潮来
笠間 16－4 八郷
高萩 12－11 竜ケ崎二
結城二 10－6 土浦二
鉾田二 14－6 藤代
麻生 17－5 石岡二
岩井 17－8 太田二
下妻二 7－6 竜ケ崎一

▽2回戦

水海道二 23－3 笠間
高萩 12－4 結城二
麻生 14－7 鉾田二
下妻二 7－6 岩井

▽準決勝

水海道二 25（10－0 15－1）1 高萩
麻生 15（10－3 5－3）6 下妻二

▽3位決定戦

下妻二 9（4－5 5－3）8 高萩

▽決勝

水海道二 19（7－5 12－3）8 麻生

◆第33回中国高校選手権大会（5月15・16日）

〈男子〉

▽1回戦

下松工 34－20 松江工
境港工 27－14 津山
広 29－25 江津
総社 27－18 境
倉敷天城 17－16 修道
下関中央工 29－17 倉吉東
尾道 22－17 水島工
岩国 33－25 松江南

▽2回戦

下松工 34－19 境港工
総社 29－17 境
倉敷天城 16－15 下関中央工
岩国 23－18 尾道

▽準決勝

下松工 25（12－9 13－9）18 総社
岩国 25（10－8 15－7）15 倉敷天城

▽決勝

下松工 27（3－1 2－2 11－8 11－14）25 岩国

＜女子＞

▽1回戦

山陽女 29－2 倉吉産

邇摩温泉津分 14－7 西大寺

徳山商 34－7 倉吉西

倉敷天城 10－9 進徳女

総社 11－8 比治山女

松江市女 15－14 防府商

松江第一 18－8 倉敷商

岩国商 25－9 米子南商

▽2回戦

山陽女 26－3 邇摩温泉津分

徳山商 18－10 倉敷天城

総社 17－15 松江市女

岩国商 17－8 松江第一

▽準決勝

山陽女 12（4－5 8－4）9 徳山商

岩国商 23（13－4 10－5）9 総社

▽決勝

山陽女 16（2－0 2－2 5－5 7－7）14 岩国商

◆第17回群馬県高校総合体育大会兼第28回関東高校選手権予選

（5月14・15・16日）

＜男子＞

▽1回戦

桐生 33－14 育英

利根農 22－19 下仁田

▽2回戦

前橋商 36－13 桐生工

前橋 28－9 藤岡

富岡 37－12 桐生

吉井 31－9 利根農

▽準決勝

富岡 25（15－5 10－7）12 前橋商

吉井 23（13－7 10－7）14 前橋

▽3位決定戦

前橋 22（11－8 11－7）15 前橋商

▽決勝

富岡 23（12－6 11－10）16 吉井

＜女子＞

▽1回戦

前橋市女 24－9 佐藤学園

桐生西 18－10 前橋商

前橋東商 13－10 高崎女

▽2回戦

群女短大付 22－9 桐生西

高崎市女 17－10 桐生女

下仁田 20－18 前橋市女

吉井 29－2 前橋東商

▽準決勝

群女短大付 18（10－6 8－4）10 高崎市女

吉井 17（9－6 8－5）11 下仁田

▽3位決定戦

高崎市女 18（9－4 9－9）13 下仁田

▽決勝

吉井 14（8－5 6－8）13 群女短大付

◆第18回九州一般男子選手権、第11回九州女子クラブ大会

（5月15・16日）

＜男子＞

▽1回戦

本渡クラブ（熊本） 29－16 白石クラブ（佐賀）

鹿児島クラブ（鹿児島） 40－27 佐賀関クラブ（大分）

本田技研熊本 24－19 口加クラブ（長崎）

赤間クラブ（福岡） 44－20 鹿屋白衛隊（鹿児島）

佐世保クラブ（長崎） 48－28 熊本クラブ（熊本）

新日鉄大分（大分） 34－23 神埼龍の子クラブ（佐賀）

▽2回戦

全宮崎（宮崎） 45－16 本渡クラブ

鹿児島クラブ 37－28 本田技研熊本

佐世保クラブ 33－32 赤間クラブ

熊本教員（熊本） 33－30 新日鉄大分

▽準決勝

全宮崎 32（18－13 14－16）29 鹿児島クラブ

佐世保クラブ 25（12－15 13－7）22 熊本教員

▽決勝

全宮崎 35（16－17 19－12）29 佐世保クラブ

＜女子＞

▽1回戦

福教大クラブ（福岡） 31－6 長崎クラブ（長崎）

熊本クラブ（熊本） 15－13 オール鹿児島（鹿児島）

熊本市高勇士（熊本） 21－12 全宮崎（宮崎）

神埼クラブ（佐賀） 25－12 大分クラブ（大分）

▽準決勝

福教大クラブ 20（1－0 7－11 11－7）19 熊本クラブ

神埼クラブ 13（5－7 8－5）12 熊本市高勇士

▽決勝

福教大クラブ 27（13－5 14－8）13 神埼クラブ

◆第20回茨城県実業団選手権

（5月16日）

＜男子＞

▽1回戦

白衛隊古河一施大 20－12 白衛隊古河

▽準決勝

日本原研 22－19 動燃東海

自衛隊勝田 19－17 自衛隊古河一施大

◁決勝

白衛隊勝田 23（11－10 12－5）15 日本原研

◆全国高校総体高知県予選

（5月22・23日）

＜男子＞

▽1回戦

須崎工 19－15 伊野商

吾北 21－12 中村

西 22－12 須崎

▽2回戦

土佐 31－8 須崎工

中芸 15－11 吾北

東 20－18 幡多農

追手前 29－7 西

▽準決勝

土佐 20（8－4 12－5）9 中芸

追手前 22（11－7 11－5）12 東

▽3位決定戦

東 26（16－10 10－5）15 中芸

▽決勝

土佐 18（10－1 8－7）8 追手前

＜女子＞

▽1回戦

佐川 17－3 中村

▽2回戦

佐川 11－3 西

東 19－10 中芸

▽決勝

東 11（5－3 6－7）10 佐川

◆第12回関東クラブ選手権千葉県予選

（5月23日）

＜男子＞

▽準決勝

小金ク 23（6－7 17－5）12 木更津ク

清水ク 13（6－6 7－6）12 鶴舞ク

▽決勝

小金ク 23（14－3 9－6）9 清水ク

＜女子＞

▽準決勝

東邦ク 10（5－5 5－3）8 水郷ク

昭和ク 18（11－6 7－1）7 朝顔ク

▽決勝

昭和ク 16（7－7 9－5）12 東邦ク

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二〇八号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五七年五月二十五日 印刷
昭和五七年六月一日 発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)